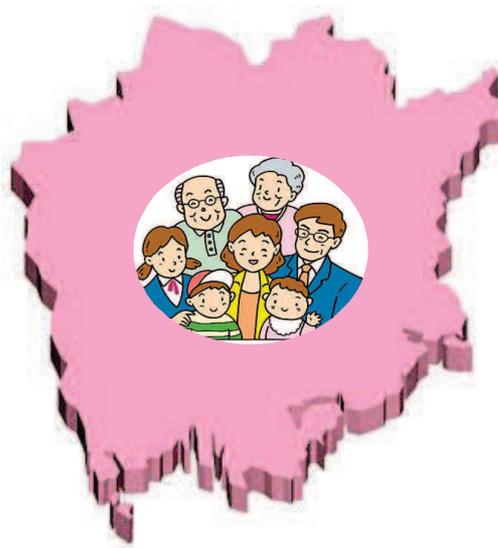


平成 2 1 年度

夢づくり協働プログラム



平成 2 1 年 4 月
岡山県備中県民局

目次

平成21年度の協働推進について	1
1 基本的な考え方	1
2 重点テーマ	1
3 具体的な進め方	2
(1) 協働の手法	2
(2) 推進体制の整備	2
(3) 協働推進図	3
4 主な協働事業	4
(1) 子育て支援の推進	4
(2) 食育・地産地消の推進	6
(3) 地球温暖化防止対策	8
(4) 安全・安心の備中	9
(5) 地域づくり・観光振興	10
(6) 備中の「ふるさと」再生	11
平成20年度の実施状況	12
1 協働推進会議の開催	12
2 協働ミーティングの実施状況	18
3 夢づくり協働推進事業の実施状況	22
4 職員研修の実施	100
5 夢づくり推進表彰の実施	102

平成21年度の協働推進について

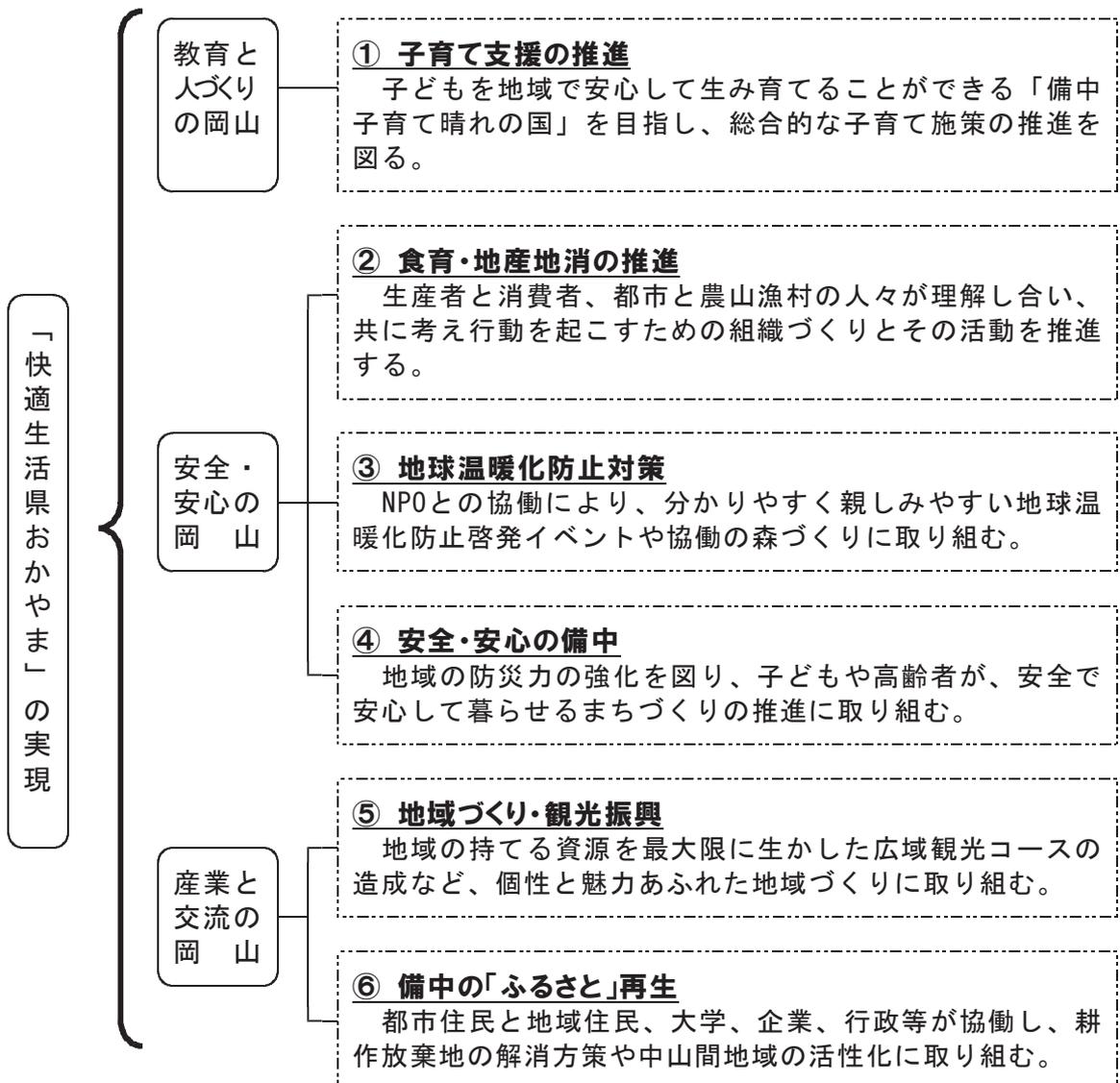
1 基本的な考え方

備中県民局では、これまで「県民局内の全ての部所、あらゆる事業において、常に協働による事業の推進の可能性を検討」することを基本に、局を挙げ協働の推進に取り組んできました。

今後とも、新おかやま夢づくりプランの3つの基本戦略である「教育と人づくりの岡山」、「安全・安心の岡山」、「産業と交流の岡山」の創造の実現に向け、備中の自然、産業、歴史、文化など、地域の特性を活かしながら、県民局の組織横断の柔軟性を発揮することにより、引き続き強力に協働の推進に取り組めます。

今年度は、これまでの協働事業の中から浮かび上がった課題や、地域が直面する現状などを踏まえ、次に掲げる6つの項目を重点テーマとして位置づけ、県民、ボランティア・NPO、各種団体、企業、市町等、多様な主体とともに事業を進めることとします。

2 重点テーマ



3 具体的な進め方

(1) 協働の手法

① 協働推進会議

- ・ 6つの重点テーマ毎に開催
- ・ 関係する多様な主体との意見交換
- ・ 課題抽出と協働事業化の検討及び実現



② 協働ミーティング

- ・ 各部所毎に個別のテーマに基づき開催
- ・ 多様な主体とのワーキング・グループを設置
- ・ 協働事業化の検討及び実現



③ 提案型公募方式の活用

- ・ 個々の事業実施にあたってはNPO等からの事業提案を募集する提案型募も活用

(2) 推進体制の整備

① 職員・NPO等への普及啓発

- ・ 地域の多様な主体や行政職員（県民局職員、市町職員）を対象
- ・ 協働基礎研修会（協働の基礎を学ぶ）
- ・ 協働応用研修会（ワークショップによる実践）
- ・ 協働リーダー養成研修会

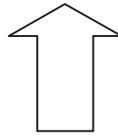
② 庁内協働推進連絡会議

- ・ 県民局内の各部所の課室長等で組織
- ・ 情報の共有等により効果的・効率的な協働施策を推進
- ・ 中心となって協働を推進する「協働推進員」も併せて配置

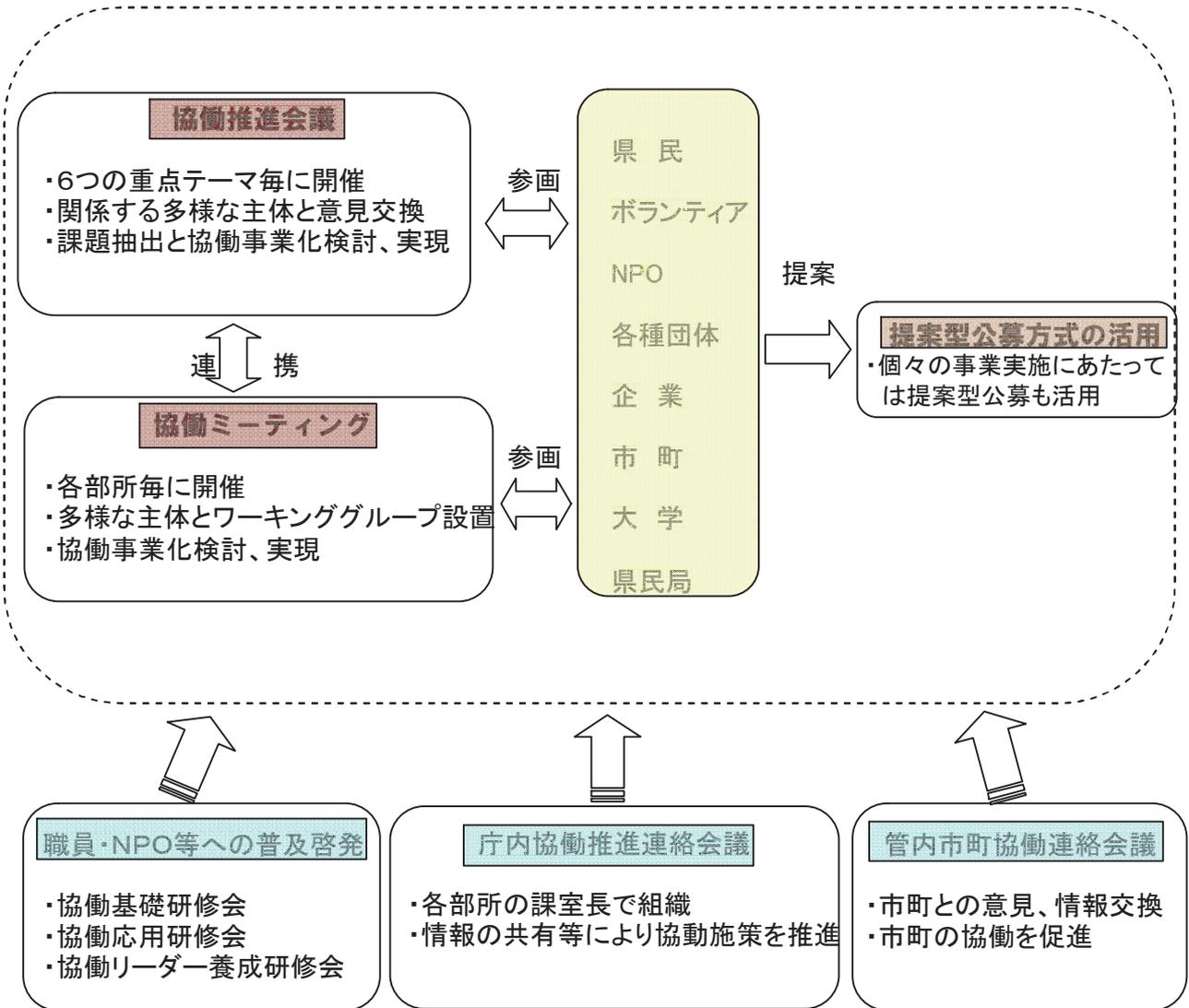
③ 管内市町との協働連絡会議

- ・ 管内市町相互の意見・情報交換の場として設置
- ・ 市町による協働の取組を促進

快適生活県おかやまの実現



協働の県政



4 主な協働事業

(1) 子育て支援の推進

事業名 備中子育て晴れの国づくり

<概要>

子育てにおいて様々な人々がつながり合い、支え合い、高め合うことにより、子ども・親・地域が育ち、次代を担う子どもたちを育む循環が生まれる地域社会「備中子育て晴れの国」を目指して総合的な子育て施策に取り組む。

<実施計画>

1 おかやま子育てカレッジ実現事業

- (1) 管内大学及び市町等への「おかやま子育てカレッジ」の提唱、実現に向けた支援
- (2) 「にいみ子育てカレッジ」の充実・支援



2 晴れ晴れ子育て応援事業

- (1) 地域における子育て支援団体の育成・ネットワークづくり
- (2) 子育て支援に実績のあるNPO等と連携したイベントやワークショップの開催



3 備中子育て晴れの国交流会(子育て支援学会)

(1) 交流会

- ①地域子育て支援に関する講演＋座談会（ワークショップ）
- ②管内の支援現場の相互見学会＋意見交換会
- ③市町村担当者との意見交換会

(2) 支援学会

- ①大学教員や子育て支援関係者の研究発表、パネルディスカッション
- ②大学教員と地域・行政との各研究テーマに関する意見交換等

4 備中子育て育て晴れの国発信事業

- (1) 「備中子育て晴れの国」のホームページ開設
- (2) 子育て支援のパネル展の開催



備中子育て晴れの国

～子育てで共感が広がる備中～
～子育てをテーマに人や情報が行きかい、高めあう備中～

管内全体

- 備中子育て晴れの国交流会
- 協働子育て支援学会（研究会）

子育てをキーワードに備中全域を産・学・官・民の様々な人や情報が行きかい高めあう関係づくり
さらに、子育て支援に関する研究者と実践者による学会（研究会）を同時開催することによる大学研究・地域活動・行政施策の連携強化

参加

参加

地域毎

- おかやま子育てカレッジ
実現事業

大学を核とした新しい協働子育て
支援拠点提唱・推進

県職員が地域へ出向き、
市町や地域の人々と一緒に
考え、支援する

- 晴れ晴れ子育て
応援事業

効果的な手法での支援者育成、
つながりづくり

参加

● 備中子育て晴れの国発信事業

各地の取組事例取材・紹介

地域で子育て支援に関わる様々な方々
産・学・官・民

（NPO・ボランティア・子育て中の親・大学・企業・行政・教育等）

(2) 食育・地産地消の推進

事業名 ビビッと備中！農林水産いきいきネットワーク

<概要>

農林水産関係団体、直売所、食品メーカー、消費者団体等の多様な主体が協働して平成18年3月に設立した「ビビッと備中！農林水産いきいきネットワーク」は、3年が経過し、これまでの取組を踏まえながら、レストラン需要の拡大や百貨店での有利販売等、中期的・戦略的な視点での取組を行うため、よりきめ細かな協働活動を推進する。

<実施計画>

1 直売所の活性化

(1) 情報共有・発信力の強化

- ①新情報システム活用による「旬の味覚先取り情報」等提供
- ②店舗情報の共有や協働イベントのリアルタイム中継等

(2) 連携イベント等の開催

- (3) 青果物等を相互に融通する体制づくりの推進
- (4) ショッピングラリーの開催



2 備中地域農林水産物のPR

- (1) 消費者等が望む加工品づくりを進める「いいものづくり塾」の開催
- (2) 伊勢丹等でのテスト販売やレストラン向け商談会での食材PR
- (3) 「緑提灯」レストランへの備中地域の食材情報提供
- (4) 地産地消フェアの開催



3 アンテナショップを活用した県内外に向けての多様な情報発信

- (1) 商品モニタリングや改善提言等による宝塚アンテナショップ機能の拡充
- (2) 百貨店等と連携したテスト販売の実施等によるアンテナショップ拠点の拡大



4 女性の視点や職能を生かした農産加工品づくりやマーケティングの推進

- (1) 女性の視点による特産品ガイド「備中ご馳走帳(仮称)」の作成
- (2) 女性の職能を結びつけるネットワークづくりの推進
- (3) 先進的なモノづくりや地域活性化に取り組む女性が参加するシンポジウムの開催



ビビッと備中！農林水産いきいきネットワーク2009

1 直売所の活性化

- 情報共有・発信力強化
 - ・新情報システム活用による「旬の味覚先取り情報」の提供
 - ・店舗情報の共有やイベント情報の発信
- 連携イベント等の開催
- 青果物を相互融通する体制づくり
- ショッピングラリーの開催



2 備中地域農林水産物のPR

- 消費者等が望む加工品づくり
- 伊勢丹等でのテスト販売やレストラン向け商談会でのPR
- 緑提灯レストランへの食材情報提供
- 地産地消フェアの開催



3 アンテナショップを活用した県内外に向けての多様な情報発信

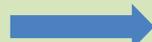
- 商品モニタリングや改善提案等による宝塚アンテナショップ機能の拡充
- 百貨店等と連携したテスト販売の実施等によるアンテナショップ拠点の拡大



消費者モニター機能を充実し生産者へ情報フィードバック



競争力のある売れ筋商品の開発



販売拠点の拡大



伊勢丹新宿店



4 女性の視点や職能を生かした農産加工品づくりやマーケティングの推進

- 女性の視点による特産品ガイド「備中ご馳走帳（仮称）」の作成
- 女性の職能を結びつけるネットワークづくりの推進
- 先進的なモノづくりや地域活性化に取り組む女性によるシンポジウム開催



生産者



シェ



消費者



野菜ソムリ



コンサルタント



料理研究家

(3) 地球温暖化防止対策

事業名 みんなでSTOP温暖化「井原線DE・もっとエコ」

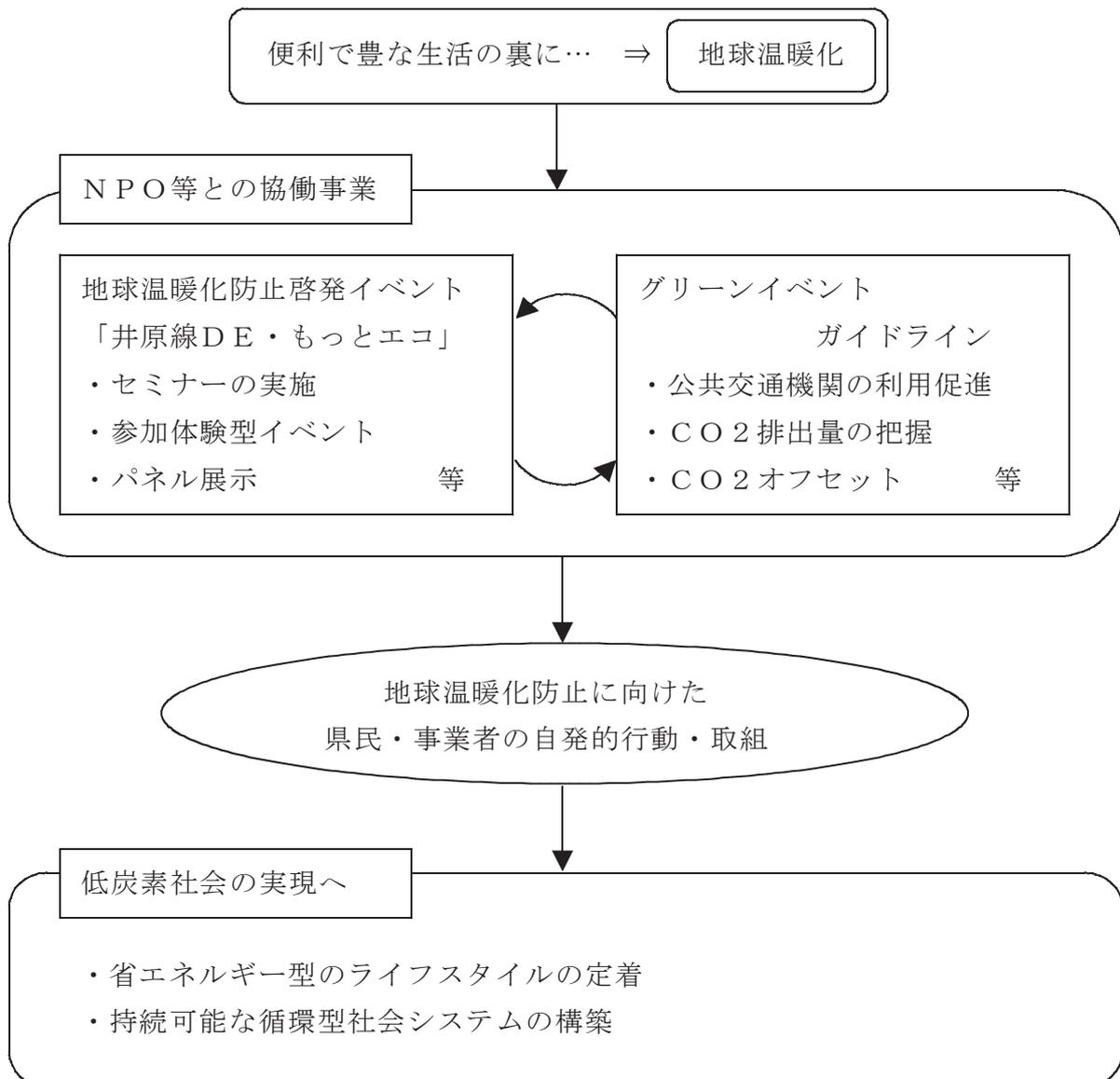
<概要>

分かりやすく、より親しみやすい環境イベントをCO₂の排出が少なく、地球にやさしい公共交通機関の利用促進を図る観点から井原線井原駅周辺において、環境月間中に「井原線DE 得得市」（毎月第1日曜日）の開催にあわせて実施する。

<実施計画>

1 みんなでSTOP温暖化「井原線DE・もっとエコ」（仮称）の開催

- (1) 新エネルギー・省エネルギーの取組の事例紹介及び体験
- (2) BDF、バイオマスなどのエコリサイクルの紹介及び実験
- (3) 環境保全活動を実践しているリーダー等によるパネルディスカッション
- (4) 備中局提案の「グリーンイベントガイドライン」の啓発及び検証



(4) 安全・安心の備中

事業名 備中地域自主防災組織の拡大支援

<概要>

台風や地震など大規模な災害に対し、地域の防災力の強化を図るため、県民局、市町、地域団体、防災NPO等と連携し、中核となる自主防災組織の設置と育成の推進を図り、住民の防災意識を育み、防災活動への参加を促す。

<実施計画>

1 防災フォーラムの開催

住民の防災意識を育み、防災活動への参加を促すため、各地域ごとに地区住民を対象とする防災講座を開催する。



2 防災ミニ講演会等の開催

住民の防災意識を育み、自主防災組織率の向上を図るため、管内市町ごとに開催される防災講座や自主防災組織等研修会に講師として出向き、講演等啓発活動を行う。



3 防災パネル展の開催

防災週間（8月30日～9月5日）、防災とボランティア週間（1月15日～1月21日）に併せて、市町、地域団体、防災NPO、防災士等と協働で防災パネル展を開催する。



(5) 地域づくり・観光振興

事業名 備中地域の広域観光コースの造成

<概要>

管内の観光関係団体、商工関係団体、NPO、企業、大学、市町、県民局で組織する「備中地域広域観光振興協議会」を推進主体として、備中地域の歴史、文化、伝統等の文化遺産や様々な地域資源を掘り起こし、広域的につなげていくことによって造成した固有のストーリー性を持った学習・体験型、交流型の広域観光モデルコースの「鉄の径」や「備中杜氏の郷」について旅行商品化を進める。

<実施計画>

1 「鉄の径」の民間実施の促進

- (1) 平成20年度に実施した民間旅行事業者によるツアーに引き続き、民間旅行事業者によるツアーの定着化とツアー実施事業者の拡大を図る。
- (2) 鉄の道文化圏（島根県安来市、雲南市、奥出雲町）など県内外との連携による新たな展開を検討する。



中世たたら製鉄の再現（新見市）



JFEスチール（株）西日本製鉄所

2 「備中杜氏の郷」の民間試行支援

備中地域広域観光振興協議会の支援と県酒造組合との連携により民間旅行事業者が主体となったツアー運行など、旅行商品化を支援する。



酒蔵見学



備中神楽（松尾明神の酒造り）

3 広域連携の提案

「鉄の径」及び「備中杜氏の郷」のモニターツアー実績を踏まえ、県観光連盟に対し、全県的な取組につながるような企画・調整を提案する。

(6) 備中の「ふるさと」再生

事業名 ① 都市との交流による耕作放棄地の解消

<概要>

都市農山漁村交流や農村景観の保全等に関心を持つ都市住民と地域住民、大学、県民局等が協働し、耕作放棄地の解消方策や耕作放棄地を活用した地域の活性化方策を検討するとともに、都市住民との交流の実践により耕作放棄地の解消を図り、中山間地域の活性化につなげる。

<実施計画>

1 グリーンツーリズム等による耕作放棄地の解消

(1) 耕作放棄地を活用したグリーンツーリズムモニターツアーの実施

耕作放棄地を活用した耕作・収穫体験（そば、いも等）を行うモデル地区と協働して、モニターツアーを実施する。

(2) 耕作放棄地への放牧を活用した地域活性化

耕作放棄地の解消のために放牧した牛等を活用して、地域の活性化を図ろうとするモデル地区と協働してモニターツアーを実施するとともに、体験メニューや特産品の開発に対する支援を行う。

2 企業や都市住民との協働による耕作放棄地の解消

(1) 企業との協働

企業に働きかけて、社会貢献（地球に優しい活動）や職員の福利厚生として、耕作放棄地の解消（耕作、景観、植物の植栽、植林等）を行う。

(2) 都市住民との協働

都市農山漁村交流や農村景観の保全等に関心を持つ都市住民（NPO法人を含む）と耕作放棄地の解消方策（耕作、景観植物の植栽、植林等）を検討し、実践する。

3 大学との協働による耕作放棄地解消方策の検討、実証

大学の研究室や地元住民と協働し、地域の特性に合った耕作放棄地の解消方策を検討するとともに、実証する。

事業名 ② 高梁川の環境保全に関する調査研究

<概要>

中国山地から瀬戸内海まで備中局管内を南北に貫流する高梁川は、農工業、防災、水道等の多様な面で流域住民の生活や産業活動を支えている。こうした中、備中県民局では、平成19年度から高梁川の清流を守り育てる取組の一環として「高梁川源流の森を活かし、守ろう」をテーマに「企業との協働の森づくり」に取り組んでいるが、このような取組と同様、あらゆる分野での高梁川の環境保全に関する新たな施策の可能性を検討するための調査研究を行う。

平成20年度の取組状況

1 協働推進会議の開催

【備中全域】 テーマ：子育て支援の推進

日 時	平成20年6月19日（木）	
場 所	備中県民局会議棟1階会議室	
参 加 者	宮島 裕子 石井 泰博 久保 豊子 長田 実 小河 晶子 山野井敦徳 岡崎 順子 中野奈穂子 藤井伊津子 寺見 章 片山 啓子 三好 年江 宇野 均恵 中島久美子 渡辺美由紀 家本 光子	笠岡第一病院 副理事長 児島商工会議所 専務理事 岡山短期大学 幼児教育学科 教授 倉敷市立短期大学 保育学科 教授 川崎医療短期大学 医療保育科 准教授 くらしき作陽大学 子ども教育学部 教授 岡山県立大学 保健福祉学部 教授 岡山県立大学 保健福祉学部 准教授 順正短期大学 幼児教育科 講師 吉備国際大学 社会福祉学部 准教授 新見公立短期大学 幼児教育学科 教授 新見公立短期大学 幼児教育学科 助教 NPO法人子ども劇場笠岡センター 理事長 NPO法人保育サポート「あい・あい」 理事長 新見市幼児クラブ交流事業実行委員会 前委員長 新見市主任児童委員連絡部会 会長
発言要旨	<p>○にいみ子育てカレッジでのひろば（親子交流）は金、土曜日に開催。参加したくてもできない人もいる。内容を検討していきたい。</p> <p>○ひろばで若い母親と顔見知りになることで気軽に話ができる。ひとりで悩まない環境を作っていきたい。</p> <p>○毎年、産休、育休者が10人以上出ている状況。企業としては、職員が抜けることが多く苦しいが、子どものため、地域のためと思い頑張っている。</p> <p>○地域の中で色々な人が触れあえるコミュニティーを創っていきたい。その中で子どもたちがいきいきと育つ場を創っていきたい。</p> <p>○大学の取組として、数年前から地域に図書館の開放を行い、子育てに関する公開講座を実施している。今後、新見の取組を参考とし、検討していきたい。</p> <p>○子育てというと健常児のことを思い浮かべがちだが、障がいある子どもたちも含めた支援を考えていかななくてはならない。</p> <p>○日頃から地域に還元できることを考えている。地域にどう貢献していくかを考えていきたい。</p> <p>○岡山県は保育に関しては先進県である。今まで自分たちでできなかったことを行政、地域と協力して実施していきたい。</p> <p>○新見のように大学を拠点として地域との連携を図れば可能性が広がり、夢も広がると思うが、一方で、子育て支援拠点はベビーカーで押していける範囲で設置するのが理想という人もいる。大学は人里離れた場所に多いが、今ある資源を活用しつつ実際に何ができるか再検討したい。</p> <p>○里山を活用した体験教育を実施する。大学周辺の自然に親や子どもが自由に遊べる環境を創っていきたい。そのためには地域との連携が不可欠。一時的な取組で終わらないよう持続可能な仕組みを考えていきたい。</p>	

【井笠地域】 テーマ：地域づくり・観光振興（井原線沿線の農山村振興）

日 時	平成20年6月23日（月）	
場 所	井笠地域地場産業振興センター3階会議室	
参 加 者	三宅 勝志 徳永 明義 山成 博孝 坂川 俊夫 小野 雄二 清水 明人 門野 三郎 張谷 和弘 槇坂 一成 片山 幸一 松王 資子	JA岡山西 西部アグリセンター センター長 JA倉敷かさや 矢掛営農センター 井原商工会議所 専務理事 備中西商工会 会長 真備船穂商工会 事務局長 井原市実行委員会 委員長 真備日曜朝市実行委員会 委員長 井笠ほのぼの市場 会長 明治蔬菜園芸組合 組合長 下高末棚田保全組合 組合長 岡山県消費生活問題研究協議会倉敷支部 副支部長
発言要旨	<p>○得得市の集客が増えない。福山、神辺方面のお客をいかに呼ぶか対策を講ずべき。</p> <p>○今のままでは観光客は来ない。井原線は高架なので、四季を通じての景観（山一面の桜、田んぼの花）をPRすべき。大胆な発想が必要だ。</p> <p>○沿線の核になるものをPRしていく。例えば、矢掛に小民家を改造して豆腐料理が食べられる店が出来たが、井原線の利用客が増えている。</p> <p>○各地域でのイベントが集客に効果があるが、継続性の問題がある。一過性のものでは難しい。</p> <p>○農業の後継者不足は大きな問題だが、定年帰農者の活用を図って解決していく。農業改良普及所、町等と連携して定年帰農塾を開催している。</p> <p>○農業の高齢化が大きな問題。農家所得も増やすことが重要だが、高齢者もできるだけ長く続けられるような仕組みを考えていく必要がある。</p> <p>○得得市などまだまだ一般に知られていない。色々な会合等でPRして、もっと広めていくようにしないと駄目だ。</p> <p>○過疎地域では、今後、農と商が連携していかなければならない。</p> <p>○井原線の駅に農産物直売所、特産品販売があれば情報発信に効果的だ。</p> <p>○都会の消費者は、農業体験（シイタケ刈り、炭焼き、コンニャク、漬け物づくり等）を非常に喜ぶ。これからは体験させることを行うべき。消費者の望むことを実際に体験して分かってもらう。</p> <p>○井原線は美星町から遠い。美星青空市までの公共交通機関があればいい。</p>	

【高梁地域】 テーマ：備中のふるさと再生（中山間地域の活性化に向けて）

日 時	平成20年6月27日（金）	
場 所	備中県民局高梁支局3階会議室	
参 加 者	牧野 義廣 泉 修平 村本 茂樹 小見山節夫 仲田 芳人 守屋 美雪 信里 博司 信里 泰子 加藤 幹生	高梁市中央高原三地域懇談会 産業振興研究部会長 平川地区コミュニティ協議会 事務局 吉備国際大学 環境経営学部 学部長 NPO法人ふれあいの里・高梁 理事長 かのさと体験観光協会 事務局長 箭田まちづくり推進協議会 事務局長 かのさと棚田クラブ 会員 かのさと棚田クラブ 会員 高梁市企画課 主幹
発言要旨	<p>○宇治地区では10数年前から農村型リゾートとして都会からの受入実績があったが、人口を増やす効率のよい方法として都市との交流を推進。現在、尼崎の人たちと交流しているが、温かい家庭の雰囲気、第2のふるさととってもらうことが大事。</p> <p>○平川地区では20～30年前から大阪、兵庫の人と交流してきたが、今は停滞気味。皆、高齢化してしまい、交流できなくなった。真剣に平川のことを考えるとグリーンツーリズムを行っていきたいが、受入側は準備が大変である。</p> <p>○川上、成羽、備中、高梁と各地域で個々にPRしているが、高梁全体をひとつに統一的に結びつけられないのか。地域資源をいかに有効活用するか。高梁川という資源をどうして活用しないのか。</p> <p>○都会の人には実際に中山間地域の山や田を見てもらい、良さを知ってもらえればよい。都市との交流は心の触れ合いが大切である。なるべく多くの人と接し、都会のエネルギーをもらう。</p> <p>○かのさと体験観光協会では行政に頼らない運営を考えており、いかに無駄な労力を省くかがポイント。</p> <p>○都市と農村の交流はお互いの地域を高め合う。何を行っても、どんなことをしても交流の種になる。</p> <p>○これまで農業体験がなかったが、作業を終えた後の爽快感、地元の人との温かい触れ合いがとてうれしく忘れられなかった。</p>	

【新見地域】 テーマ：地球温暖化防止対策（高梁川源流の森を活かし、守ろう）

日 時	平成20年7月3日（木）	
場 所	備中県民局新見支局3階会議室	
参 加 者	前田 忠志 山口紀久子 中島 元幸 福田万寿二 岡田純一郎 徳田 伸一 川野 孝志 山口 正志	阿新地域美しい森づくりの会 会長 新見市神郷婦人林研グループ 会長 新見市森林組合 代表理事組合長 新見市新林業経営者クラブ 会長 JFEスチール（株）西日本製鉄所 総務室長 （株）ジャパンエナジー水島製油所 総務課 （株）クラレ倉敷事業所総務部 課長代理 新見市経済部 次長
発 言 要 旨	<p>○企業との森づくりは地域の活性化につながるの、地元側は受入体制をしっかりと整備する必要がある。</p> <p>○新見は県南から遠いが、源流の森を守るということを認識してもらい、企業も一緒になって山を守ってもらいたい。</p> <p>○現在の林業を取り巻く状況は、材価の低迷、高齢化、後継者不足等で荒廃する一方である。</p> <p>○森林整備はボランティアだけではできない。企業には継続的な支援をお願いをしたい。</p> <p>○企業が森林整備に取り組にはいくつかの課題がある。経費、手間、責任の問題。以上のことをクリアして企業内のコンセンサスを得ていく必要がある。</p> <p>○企業が実際に森林整備を行うにあたってのポイントは、大型バスで行けるところ、宿泊施設が整っているところ、家族連れで行くので、トイレ施設が整備されているかが重要である。</p> <p>○弊社も高梁川から多大な恩恵を受けている。源流の森を守っていかねばならないが、直ぐに実施というわけにいかない。まず、森林体験会等に参加し、一歩ずつ進んでいければと思っている。</p>	

【備中全域】 テーマ：食育・地産地消の推進

日 時	平成20年7月16日（水）	
場 所	備中県民局会議棟1階会議室	
参 加 者	山部 慎一 若林 正明 浅原 真弓 野田裕一郎 原田 節也 香西 達夫 西濱 英明 福場 信一 酒井 孝夫 中山 晃子 数原 健功	倉敷かさや農業協同組合 営農部長 岡山県漁連水産物展示販売所「ふゆ～ちゃ～」 所長代理 岡山玉島市場LLP 職務執行者 （株）のだ初 専務取締役 くらしき作陽大学食文化学部商品開発交流センター客員教授 きよね有機の郷 代表者 （有）アグリ元気岡山 支配人 生活協同組合おかやまコープ井笠地域事務局 事務局長 （有）ウカンファーマーズファクトリー 代表取締役 うかん風ぐるま市場百姓グループ 代表 （有）草間自然休養村 代表取締役
発言要旨	<p>○地産地消や食について、フェアや青空市でPRすることが重要。</p> <p>○資材の高騰等、食の安全にはコストがかかることを消費者に理解してもらう活動が必要だ。</p> <p>○地産地消の生産物の引き合いは増加したが、消費者の日々の生活の中で価格面等でどこまで対抗できるかが問題。</p> <p>○都市との交流（宝塚アンテナショップ等）、グリーンツーリズムも農業、地産地消の理解に有効だ。</p> <p>○消費者との交流で、ワラビ狩り、サトイモ掘り、ピオーネ刈り等を行っているが、アピールの仕方が分からない。</p> <p>○産業（業種）相互のネットワークは有効である。互いに活動に必要なモノ、情報を補完しあえるビジネス引き継ぎサイトのような運営があればよい。</p> <p>○地産地消を推進する上で、農・商工の連携が必要。このネットワークにもっと商工会に入ってもらいたい。</p> <p>○価格訴求から価値訴求への変更が重要だ。再生産費用を回収できるものであればこそ、直売所の存在意義がある。</p> <p>○地元直売所だけでは捌けないため、岡山や高梁にも出荷しているが、返品も多い。販路の工夫が必要と考えている。</p> <p>○大学として地域に貢献していきたい。</p> <p>○県内183カ所の直売所が地域経済にもたらす効果は、試算で売上げの約1.6倍程度ある。経営を維持していく上での適正規模というものがあるのではないか。</p>	

【倉敷地域】 テーマ：安全・安心の備中

日 時	平成20年7月17日（木）	
場 所	備中県民局会議棟1階会議室	
参 加 者	西山 寿雄 片山 崇 吹本 秀樹 渡辺 智 吉富 勝 糸島 信夫 浅沼 信子 佐藤 孝之 川西 清治 溝手 照明 角田 節男 高瀬 栄二 岡中 芳浩 小池 初男 下杉 敏史 橋本 典男	倉敷市自主防災組織連絡協議会 会長 倉敷市自主防災組織連絡協議会 副会長 倉敷市消防団児島方面隊琴浦西分団第1部 部長 倉敷市災害ボランティアコーディネーター連絡会 会長 小寺南1組町内会 会長 秦地区連合町内会 事務局長 総社市消防団本部 部長 片田自治会 会長 備南台自治会 会長 早島町消防団 団長 倉敷市総務局防災危機管理室 倉敷市消防局消防総務課 総社市総務部総務課 総社市消防本部庶務課 早島町総務課 早島町企画課
発言要旨	<p>○心配なのは自主防災組織率の低さ。静岡県は99%以上。愛知県、兵庫県は95%以上。岡山県は45.9%で備中地域はそれより低い。</p> <p>○玉島地域では、なかなか自主防災組織が立ち上がらない。立ち上げてその後どうしたらいいかわからない。</p> <p>○倉敷市の災害ボランティアコーディネーター講習を受けたことが自主防災組織を立ち上げのきっかけとなった。</p> <p>○危機管理の上で自主防災組織は縦の連絡網をきっちりして上から下への命令系統をつなげて動いて欲しい。消防団は補助しかできない。</p> <p>○地域のことは地域で守るのが基本。ボランティア活動は、その後のこと。どの地域で誰がどのような状況なのかという情報がないと全く動けない。</p> <p>○ボランティア活動は、自主防災組織や民生委員等と連携して情報交換しないと役に立たない。</p> <p>○地震のときは、地域の人全員が被災者となりうる。地域の人誰も動けないという状況になる。</p> <p>○災害の時、いかに住民に伝達するかがポイント。人と人とのつながりが何よりも大切である。</p> <p>○秦地区連合会は組織を立ち上げたばかり。これからがスタートである。</p> <p>○災害が起きたら市が避難場所のハザードマップを作成しているので、各戸の老人に声を掛ける体制を取っている。</p> <p>○ある日突然襲ってくるのは地震。半日は公的援助を期待しても無理。その間は自分たちの生命、財産を守ることを前提に考えている。</p> <p>○企業がもう少し協力してもらえないか国、県、町と一緒に考えてもらいたい。</p>	

2 協働ミーティングの実施状況

【担当部所】 地域政策部 協働推進室

テ　－　マ	男女共同参画団体交流事業	
協働の相手方	管内男女共同参画団体等	
意見聴取状況	第1回： 5月13日 第2回： 6月26日 第3回： 7月31日 第4回： 9月 1日 第5回： 10月 8日 第6回： 2月 2日	研修会： 12月11日

テ　－　マ	地域づくり団体等交流推進事業	
協働の相手方	地域づくり団体、市町等	
意見聴取状況	第1回： 4月 2日 第2回： 5月 8日 第3回： 6月 3日 第4回： 7月 7日 第5回： 8月 4日 第6回： 9月 1日	第7回： 10月 6日 第8回： 11月10日 第9回： 1月13日 第10回： 2月10日 第11回： 3月10日 全体交流会： 11月22日

テ　－　マ	青少年交流・体験事業「白石島サマーキャンプ」	
協働の相手方	白石・島づくり委員会、笠岡市	
意見聴取状況	第1回： 5月13日 第2回： 6月13日 第3回： 7月 9日	

テ　－　マ	備中地域の広域観光コースの造成	
協働の相手方	管内の商工会議所・商工会、観光協会、観光関係団体、企業、大学、市町等	
意見聴取状況	第1回： 7月 2日	第2回： 10月22日

テ　－　マ	地域間交流促進モデル事業	
協働の相手方	高梁市中央高原三地域懇談会、高梁市成羽町観光協会吹屋支部 高梁市成羽町中野地区、高梁市等	
意見聴取状況	第1回： 6月 6日 第2回： 6月27日 第3回： 7月15日 第4回： 8月28日	第5回： 10月29日 第6回： 11月10日 第7回： 11月28日 第8回： 12月 8日

【担当部所】環境課

テ　　マ	イベントグリーン化・岡山ルール策定	
協働の相手方	備中國地域づくり交流会、グローバルネット吉備、岡山県環境保全事業団	
意見聴取状況	第1回： 4月 9日 第2回： 5月 9日 第3回： 6月13日 第4回： 7月11日 エコマニユアル試行 第1回： 4月19日 第2回： 6月 1日	第5回： 8月22日 第6回： 9月19日 第7回：10月16日 第8回：12月 4日 第3回： 8月10日

【担当部所】税務部

テ　　マ	租税教育推進事業（租税教室開催）	
協働の相手方	税務署、市町、小学校及び税務関係団体	
意見聴取状況	第1回：10月1日	第2回：10月 2日

【担当部所】健康福祉部

テ　　マ	子育てカレッジの実現事業	
協働の相手方	新見公立短期大学、新見幼児クラブ交流事業実行委員会、新見子どもセンター協議会、新見市保育協議会、新見市主任児童委員連絡部会、新見市愛育委員会、新見市栄養改善協議会、新見商工会議所、新見市社会福祉協議会、新見保育所、井倉幼稚園、新見市	
意見聴取状況	第1回： 4月21日 第2回： 5月22日 第3回： 6月24日 第4回： 7月28日	第5回： 8月 8日 第6回： 9月29日 第7回： 3月 5日

テ　　マ	晴れ晴れ子育て応援事業（高梁地域）	
協働の相手方	NPO法人保育サポート「あいあい」、ファミリーサポートセンター、たかはしレクリエーション協会、高梁保育子育て支援センター、おはなしたまてばこ、川上子育てサポーター、高梁市子供会連合会、高梁の福祉を考える会、主任児童委員、親子クラブ、地域の子育てボランティア	
意見聴取状況	第1回： 8月19日 第2回： 9月 3日 第3回：10月10日 第4回：11月 5日	第5回：11月13日 第6回：11月22日 第7回：11月28日

テ　　マ	晴れ晴れ子育て応援事業（矢掛地域）
協働の相手方	NPO法人子ども劇場笠岡センター、親子クラブ、子育てサークルtomatoクラブ、絵本の会「ゆめ」、読み語りサークル「コロボックル」、人形劇サークル「じゃんけん・ぽん」、主任児童委員、備中西商工会矢掛支部婦人部、矢掛高校ボランティア部、矢掛町子育て支援センター、NPO法人ゆめ21やかげ、NPO法人倉敷子育てネットワークたんぼぼファミリー
意見聴取状況	第1回： 8月22日 第2回： 9月19日 第3回： 10月23日 第4回： 11月12日 第5回： 12月 2日 第6回： 12月 7日 第7回： 12月18日

テ　　マ	中山間SUN・山プロジェクト
協働の相手方	健康の森学園、神郷の郷、ワークセンター阿新、NPO法人風の音、NPO法人100万回のサーアたいへん、NPO法人ハートフルあしん、新見障害児者と共に歩む会、新見市連合婦人会、新見市栄養改善協議会、新見子どもセンター協議会、神郷町長寿会、地元町内会、新見市自立支援協議会
意見聴取状況	第1回： 7月15日 第2回： 9月 1日 第3回： 9月29日 第4回： 10月 7日 第5回： 10月16日 第6回： 11月 7日 第7回： 12月 3日 第8回： 1月19日 第9回： 1月19日 第10回： 2月 6日 第11回： 2月15日

テ　　マ	地域食育推進活動
協働の相手方	山手地域づくり協議会、山手地区社会福祉協議会、山手地区栄養改善協議会、山手地区愛育委員協議会、山手小学校、山手小学校PTA、総社東学校給食共同調理場、山手幼稚園、山手幼稚園PTA、山手保育園、たんぼぼクラブ、備南食品衛生協会、総社吉備路商工会、きびの華やまて、JA岡山西山手支店、総社市老人クラブ連合会山手支部、総社市栄養改善協議会、総社市
意見聴取状況	第1回： 5月19日 第2回： 6月17日 第3回： 7月30日 第4回： 8月 5日 第5回： 9月 9日 第6回： 9月11日 第7回： 9月24日 第8回： 11月17日 第9回： 12月12日 第10回： 2月 6日 第11回： 3月 4日

【担当部所】農林水産事業部

テ　　マ	都市住民との交流による中山間地域の活性化
協働の相手方	都市住民、NPO法人、新見・高梁・笠岡地域住民、民間旅行者、新見市、高梁市、笠岡市
意見聴取状況	新見地域 第1回： 12月 8日 笠岡地域 第1回： 2月26日 高梁地域 第1回： 1月19日

テ　－　マ	新見市神郷における新規参入者受入体制づくり
協働の相手方	J A阿新トマト部会神郷支部、地元農業委員、地元市議員、J A阿伸、新見市
意見聴取状況	第1回：9月 5日 第2回：1月28日 第3回：2月10日

【担当部所】新見支局

テ　－　マ	夢づくり新見健やかネット会議にいみ食育推進隊
協働の相手方	新見小・中学校会、新見地区保育協議会、新見市幼稚園教育研究会、小・中・高校養護教諭、神郷学校給食共同調理場養護教諭、新見市P T A連合会、新見市老人クラブ連合会、新見食品協会、新見市環境衛生連合協議会、岡山県栄養士会新見支部、にいみ後継者クラブ、J A阿新女性部、N P O法人きらめき広場、新見保健所管内愛育委員会、新見保健所管内栄養改善協議会、新見市、新見市教育委員会
意見聴取状況	第1回： 9月 5日 第2回 2月27日

テ　－　マ	精神障害者・家族と地域の協働による心のユニバーサルデザイン推進プログラム
協働の相手方	N P O法人ハートフルあしん、精神障害者家族会（わかば会）、回復者クラブつつじの会、共同作業所つつじ憩いの家、新見保健所管内愛育委員会、新見保健所管内栄養改善協議会、新見市民生児童委員協議会、N P O法人ハートフルあしん・ボランティアの会、新見公立短期大学、岡山県看護協会新見支部、新見市障害者地域活動支援センター、新見市
意見聴取状況	第1回： 9月22日 第2回：10月31日

テ　－　マ	安全・安心の確保 安全で心優しい道づくり （県道 大佐日野線の整備）
協働の相手方	大佐日野線三部落道路愛護会
意見聴取状況	第1回： 1月27日

テ　－　マ	高梁川源流の森を活かし、守ろう
協働の相手方	高梁川源流地域の住民、阿新地域美しい森づくりの会、婦人林業グループ、新見市森林組合、高梁川下流域企業、有識者、新見市
意見聴取状況	第1回： 7月 3日

3 夢づくり協働推進事業の実施状況

支局・部所名	事業名	頁	
地域政策部協働推進室	1 男女共同参画啓発事業	2 3	
	2 備中國地域づくり交流事業	2 6	
	3 青少年交流・体験事業「白石島サマーキャンプ」	2 8	
	4 備中地域の広域観光コースの造成	3 1	
	5 地域間交流促進モデル事業	3 7	
	6 備中地域自主防災組織の拡大支援	3 9	
地域政策部環境課	7 地球温暖化・ストップアクション事業	4 1	
税務部	8 租税教育推進事業（租税教室開催）	4 2	
健康福祉部	9 発達障がい児未来応援団事業	4 3	
	10 子育てカレッジの実現	4 9	
	11 晴れ晴れ子育て応援事業	5 2	
	12 晴れ晴れ子育て応援団キャンペーン	5 6	
	13 備中子育て晴れの国交流会・備中子育て晴れの国ホームページ開設	5 7	
	14 中山間SUN・山プロジェクト	5 9	
	15 地域食育推進活動	6 1	
農林水産事業部	16 ビビッと備中！農林水産いきいきネットワーク	6 5	
	17 都市と住民との交流による中山間地域の活性化	6 9	
	18 地域の森林づくり協働事業	7 1	
	倉敷・井笠農業普及指導センター	19 地域の食文化伝承と地域農産物活用促進事業	7 6
	井笠農業普及指導センター	20 ぶどうの担い手確保で中山間地域を活性化	7 8
	高梁農業普及指導センター	21 ぶどう・トマトの担い手育成と産地活性化	8 0
井笠支局	22 里山ふれあいの森づくり	8 2	
高梁支局	23 食育と地産地消の推進「元気高梁を目指した食育推進事業」	8 4	
	24 森林ボランティア育成支援事業	8 9	
新見支局	25 夢づくり新見健やかネット会議・にいみ食育推進隊	9 1	
	26 精神障害者・家族と地域の協働による心のユニバーサルデザイン推進プログラム	9 4	
	27 県道・大佐日野線の整備	9 6	
	28 高梁川源流の森を活かし！守ろう！	9 8	

平成20年度夢づくり協働推進事業の実施状況 1

事業名

男女共同参画啓発事業

事業の概要

- 1 男女共同参画啓発事業委託
 県民への意識啓発を目的として、知識や実務経験豊富な管内の男女共同参画推進団体等から事業企画を広く募集し、優秀な提案を選定して、団体への委託により事業を実施した。
- 2 男女協働参画団体交流事業
 県民局に管内の男女協働参画団体の代表が集まり、定期的に協働ミーティングを開催し、団体間の情報交換を行った。
- 3 人権研修会
 備中県民局主催の「男女共同参画社会づくり表彰式」に併せて、市民団体の企画・運営による人権研修会を実施した。

協働の主体、役割分担

事業	協働の主体	役割分担
男女共同参画啓発事業委託	(男女共同参画推進団体等を対象) 「エンパワメント MOMO」 (笠岡市)	「男女共同参画啓発事業」の企画・運営
	県民局（協働推進室）	企画コンペの実施、対象事業選定、市民団体への事業委託 事業の広報、参加者募集等への協力
男女協働参画団体交流事業	「イーブくらしきネットワーク」等、管内の男女共同参画推進団体の代表ほか	交流会での情報交換・提言 「人権研修会」の企画・運営
人権研修会	県民局（協働推進室）	交流会の運営 「人権研修会」の事務局業務

実施状況

1 男女共同参画啓発事業委託

(1) 企画コンペの公募

備中県民局管内の男女共同参画推進団体等を対象として、幅広い県民を対象とする男女共同参画啓発事業の企画提案を実施した。

①対象団体：備中管内に拠点をおく市民団体（会員10人以上、活動2年以上）

②実施場所：新見・高梁地区で1件、それ以外で1件

③事業費：20万円以内

(2) プレゼンテーションの実施

応募した「エンパワメント MOMO」の代表者、会員4人が参加し、プレゼンテーションを実施し、審査により委託が適当と認定された。

①実施日：平成20年11月4日（火）

②実施場所：備中県民局会議棟

(3) 講演会の実施

育児期の親にとっては、仕事・家庭・育児と自分自身の時間のバランスを取ることが難しい。男女共同参画による子育てを考え、自分自身を見つめ直して、自尊感情を取り戻し、肩の力を抜いて子育てに望めるよう、講演会を実施した。

期 日	場所・参加者数	実施内容等
H21.1.24 (土)	サンライフ笠岡 第1研修室 参加者 64人	講演会：子育て・仕事・そして「わたし」 ～お父さんとお母さんがもっと自分を好きになるために～ 講 師：北村年子さん (ルポライター、自己尊重トレーナー)



代表者の挨拶



北村先生の講演



託児の様子

2 男女協働参画団体交流事業

(1) 協働ミーティングの開催

管内男女共同参画推進団体の代表等が、備中県民局に定期的に集まり、団体間の情報交換を行った。

3 人権研修会

備中県民局主催による「男女共同参画社会づくり表彰式」に併せて、協働ミーティングの企画・運営による人権研修会を実施した。

DV をテーマとするコント、人権に関する講演のほか、協働ミーティング参加団体が会場においてパネル展を開催し、それぞれの活動状況を講演会の参加者にアピールした。

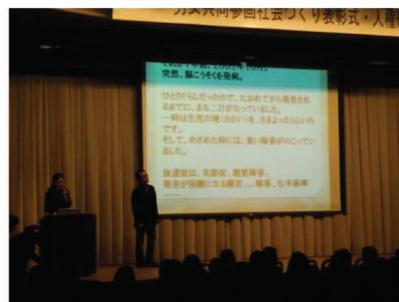
期 日	場所・参加者数	実 施 内 容 等
H20.12.11 (木)	くらしき健康福祉 プラザ 大ホール 約200人	男女共同参画コント 「DV って何でえ？」 イーブくらしき座 講演会：「障害を受け入れ 感謝で生きる」 講 師：表現者「たけ」 (本名 河村武明ポストカード作家)



「男女共同参画社会づくり
表彰式」



「男女共同参画コント」



「たけ」さん講演会

成果・効果

1 男女共同参画啓発事業委託

- (1) 市民団体のこれまでの経験を生かし、また、関係団体とのネットワークを活用して費用も低廉で、かつ効果の高い講演会を実施できた。
- (2) 市民団体としても、費用面で実施困難な事業を委託事業として実現でき、活動の拡充が図られた。また、提案書の作成、プレゼンテーションの実施、事業報告の作成等を通じて事務処理能力を向上させ、今後の法人化等への展望が開けた。

2 男女協働参画団体交流事業・人権研修会

- (1) 全県的に、県民局・支局に事務局を置く地域男女共同参画活動推進センターの解散が進む中で、交流会での団体間の情報交換・連携が団体存続へのエネルギーとなった。
- (2) 人権研修会の開催を通じて、男女共同参画団体のスキルアップ、団体間の交流促進が図られた。

平成20年度夢づくり協働推進事業の実施状況 2

事業名

備中國地域づくり交流事業

事業の概要

平成17年度に設立された管内の地域づくり団体等のネットワーク組織「備中國地域づくり交流会」との協働により、地域づくり、まちづくり等に携わる団体、個人相互の交流・連携を図り、地域全体の活性化を図った。

県民局において、毎月、定例会を開催し、意見交換等を行いながら、グリーンディへの参加、イベントグリーン化マニュアルの試行、備中國地域づくり全体交流会の開催等の事業を実施したほか、メーリングリストによる団体間の情報交換を推進した。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
備中國地域づくり交流会 (倉敷市管内16団体、笠岡市管内3団体、井原市管内1団体、総社市管内5団体、高梁市管内1団体、新見市管内1団体計27団体)	定例会での意見交換、提言 全体交流会の企画・運営 イベントグリーン化調査等
県民局(協働推進室)	場の提供等の側面的支援

実施状況

1 定例会

第1回： 4月 2日	第7回： 10月 6日
第2回： 5月 8日	第8回： 11月 10日
第3回： 6月 3日	第9回： 1月 13日
第4回： 7月 7日	第10回： 2月 10日
第5回： 8月 4日	第11回： 3月 10日
第6回： 9月 1日	

2 グリーンデイ2008への参加

高梁城下町のエコ路地めぐりを企画・実施するとともに、イベントグリーン化のパネル展示を行い、備中国地域づくり交流会の活動をPRした。

- (1) 開催日：平成20年4月19日（土）
- (2) 開催場所：高梁市役所前・栄町商店街



エコ路地めぐり

3 イベントグリーン化マニュアルの試行

青空知事室で政策提案を行ったイベントグリーン化マニュアルの試行を行った。

- (1) 試行場所
 - 第1回：グリーンデイ2008（高梁市）
 - 第2回：井原市環境フェア（井原市）
 - 第3回：倉敷一番街復活祭（倉敷市）
 - 第4回：れとろーど'08（総社市）



参加者アンケート

4 第3回備中国地域づくり全体交流会「知る人ぞ知る児島」

- (1) 開催日：平成20年11月22日（土）
- (2) 開催場所：せとうち児島ホテル 他
- (3) 参加者：備中国民局管内の県民 約110人



地域雑誌編集長の講演



児島の町を巡る

成果・効果

- 1 地域づくり団体が互いに連携することで、新たな地域活性化の手法等を探ることができた。
- 2 管内の地域づくり、まちづくり等に携わる関係者が互いに情報交換や意見交換を行うことで、相互の交流が一層図られた。
- 3 より広域的な観点から地域の活性化を進める「場」づくりが実践できた。

平成20年度夢づくり協働推進事業の実施状況 3

事業名

青少年交流・体験事業「白石島サマーキャンプ」

事業の概要

備中県民局管内は、高梁川流域を中心に南北に大きく広がり、多種多様な自然と地域を有している。この特性を生かして、管内南部、北部の子どもたちが相互に他地域に出向き普段の生活とは違った農林漁業や生活文化の体験、地域住民や参加者同士の交流を通して豊かな人間性やたくましく生きる力を育むことができるよう、関係団体、市町等と協働で実施した。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
白石・島づくり委員会（笠岡市）	事業の企画立案、事業の実施
オーシャンメールセーリングクラブ（笠岡市）	事業協力
笠岡市	事業協力
高梁市、新見市教育委員会	管内小学校へのチラシ配布協力
県立矢掛高等学校	事業協力
県水産課	事業協力
井笠保健所	事業協力
県民局（協働推進室）	事業の企画立案、広報

実施状況

- 開催日：平成20年7月28日（月）～30日（水）の2泊3日
- 開催場所：笠岡市白石島
- 参加者：県内の小・中学生48人（小学生44人 中学生4人）

倉敷市	2人	笠岡市	1人	高梁市	16人
新見市	24人				
岡山市	3人	玉野市	1人	奈義町	1人

4 内容

【7月28日(月)】



J R 笠岡駅に集合



開校式



磯の観察①



磯の観察② (県水産課説明)

【7月29日(火)】



シーカヤック



ウィンドサーフィン



底引き船



海底ゴミの学習 (矢掛高校 室教諭)



選択プログラム（クラフト）



選択プログラム（機織）



選択プログラム（魚釣り）



白石踊

【7月30日（水）】



自由研修（ハンカチアート）



閉校式

成果・効果

- 1 島での様々な体験を通じて、青少年の生きる力を育むことができた。
- 2 島外の青少年と島の住民との交流ができた。
- 3 島外の青少年の島への理解を深めることができた。
- 4 ボランティア等の受け入れを通じて、島民による地域力を涵養することができた。
- 5 行政と民間団体との協働を促進することができた。

平成20年度夢づくり協働推進事業の実施状況 4

事業名

備中地域の広域観光コースの造成

事業の概要

管内の観光関係団体、商工関係団体、NPO、企業、大学、市町、県民局で組織する「備中地域広域観光振興協議会」を推進主体として、備中地域の歴史、文化、伝統等の文化遺産や様々な地域資源を掘り起こし、備中地域固有のストーリー性を持った学習・体験型、交流型の広域観光モデルコース「鉄の径」及び「酒蔵めぐり」を造成し、商品化を進める。

協働の主体、役割分担

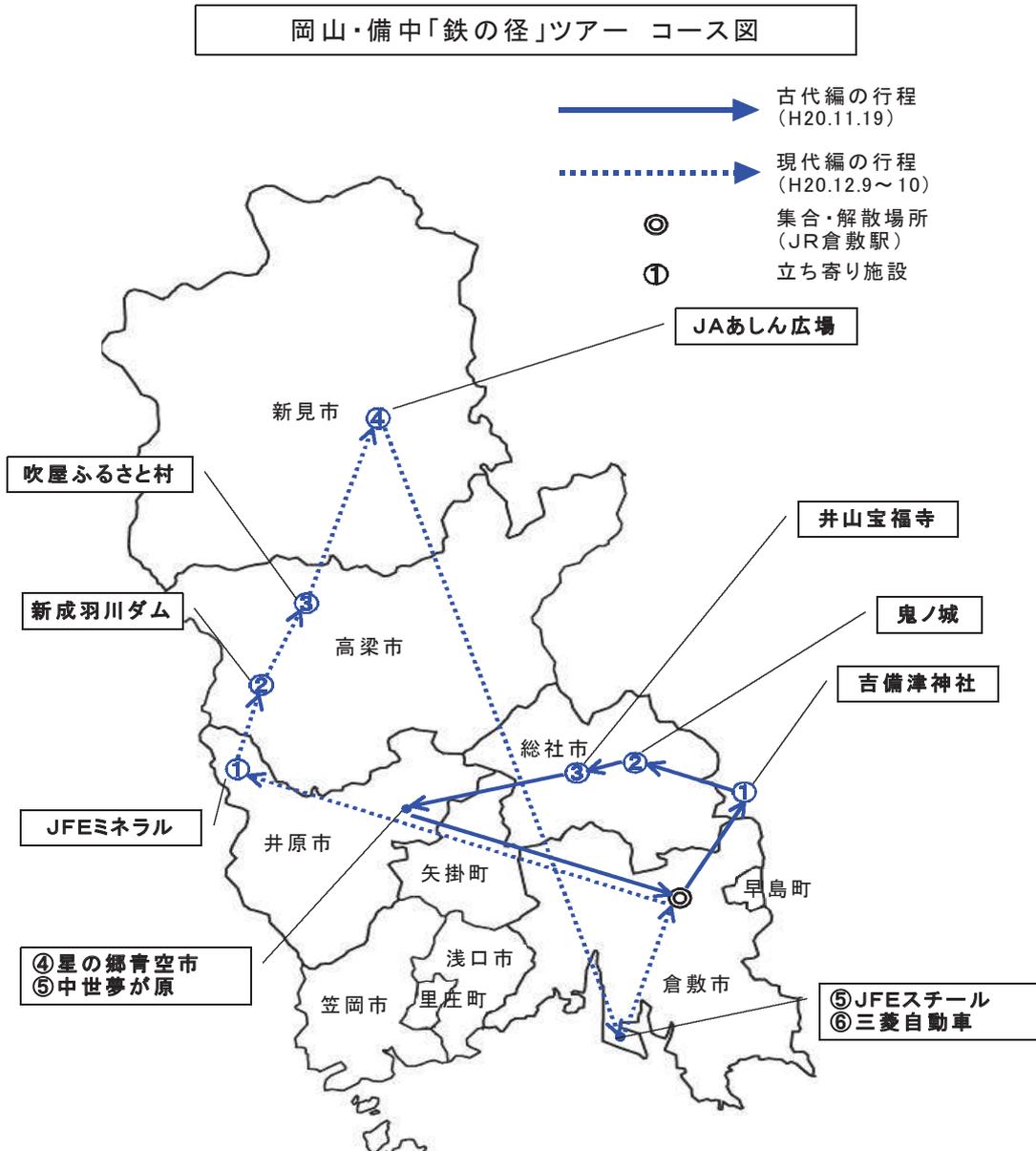
協働の主体	役割分担
備中地域広域観光振興協議会	広域観光モデルコース「鉄の径」及び「酒蔵めぐり」の企画、ガイドブックの企画・作製
水辺のユニオン	広域観光モデルコース「酒蔵めぐり」の企画 歴史・文化シンポジウム「備中杜氏今昔物語」の開催
(株) 備北ツーリスト	「鉄の径」ツアーの企画・運行
山陽新聞社、山陽新聞事業社	「酒蔵めぐり」モニターツアーの受託・実施
県民局（協働推進室）	ツアー企画・実施の支援・協力 ガイドブックの企画・作製の支援・協力 歴史・文化シンポジウムの企画・開催支援

実施状況

- 1 岡山・備中「鉄の径」ツアーの開催
 - (1) 「鉄の径」古代編（日帰りコース）
 - ①開催日：11月19日（水）
 - ①コース：吉備津神社・鬼ノ城（温羅伝説の舞台）、井山宝福寺（紅葉見学）
星の郷青空市（野菜、特産品の購入）中世夢が原（備中神楽）
 - ③参加者：18人（男性13人、女性：5人、県内：16人、県外：2人）
（50歳代～60歳代：50%）

(2) 「鉄の径」現代編 (1泊2日コース)

- ①開催日：12月9日(火)～10日(水)
- ②コース：JFEミネラル(石灰石採掘場)、新成羽川ダム(水力発電の仕組み)
吹屋ふるさと村(町並みの散策)、ラ・フォーレ吹屋(備中神楽)
JAあしん広場(野菜、特産品の購入)、JFEスチール(製鉄工場)
三菱自動車(自動車の製造工程)
- ③参加者：21人(男性14人、女性7人 県内：16人、県外：5人)
(50歳代～60歳代：62%)



岡山・備中 「鉄の径」 ツアー

岡山県の三大河川の一つである、高梁川流域に広がる備中地域。その備中地域では、古代古墳の遺跡の目撃、中世中期のたたら製鉄、水鏡の山田平太で知られる備中平太の伝説、また、「鉄」をテーマにした山田平太の伝説や、鉄やその関連品を中心とした文化など、「鉄」を巡るさまざまな物語が後世に受け継がれてきました。あなたも備中地域の「鉄」の歴史に触れてみませんか？

Aコース 「鉄の径」古代編 日帰り

「桃太郎(温羅)伝説」は、備中地域の歴史を象徴する物語です。備中地域は、古くから鉄の産地であり、鉄の産地としての歴史を刻みつけてきました。このツアーでは、備中地域の歴史を象徴する「桃太郎(温羅)伝説」をテーマに、備中地域の歴史をたどります。

11月19日(水)
集合場所/JR高梁駅北口
定員/25人
参加費/7,500円

Bコース 「鉄の径」現代編 1泊2日

現代の鉄の産地としての歴史をたどります。備中地域の歴史を象徴する「桃太郎(温羅)伝説」をテーマに、備中地域の歴史をたどります。

12月9日(火)~10日(水)
集合場所/JR高梁駅北口
定員/25人
参加費/22,000円

行程 Aコース 「鉄の径」古代編 日帰り 11月19日(水)

8:00	JR高梁駅 発
9:00~12:00	古備津神社 鬼ノ城 「桃太郎(温羅)伝説」の舞台をご案内します。
12:30~13:30	井山宝福寺 備中料理と紅葉をお楽しみください。
14:30~17:00	中世夢が原、星の郷青空市 備中神楽の見学と新鮮野菜や特産品のお買い物
18:15	JR高梁駅 着

行程 Bコース 「鉄の径」現代編 1泊2日 12月9日(火)~10日(水)

8:00	JR高梁駅 発
9:30~11:00	JFEミネラル 石灰石採掘場の見学
13:00~14:30	新成羽川ダム 水力発電の仕組み、ダムの見学
15:00~17:00	吹屋ふるさと村 ベンガラの町並みを散策 ラ・フォーレ吹屋(宿泊) 夕食後、備中神楽、吹屋小学校のライトアップをお楽しみください。
8:30	ラ・フォーレ吹屋 発
9:00~ 9:30	JAあしん広場 新鮮野菜や特産品のお買い物
11:00~13:45	JFEスチール 製鉄の工場見学、草食
14:00~16:00	三菱自動車 自動車の製造工程の見学
17:00	JR高梁駅 着

お申し込み先 ビホクツーリスト(株) [備中地区] 岡山県岡山市北区2-279
高梁市旭町1308-3
TEL:0866-22-8778 FAX:0866-22-8002

お申し込み方法 1週間前までに電話又はFAXでお申し込みください。
お支払い方法 申し込みの際に旅行代金をお支払いしますので、旅行の都度からお振込みください。

主催 備中地域広域観光振興協議会
旅行主催 株式会社(株)

岡山・備中「鉄の径」ツアー募集チラシ



「鉄の径」古代編 (日帰りコース)



「鉄の径」現代編 (1泊2日コース)

2 広域観光モデルコース「酒蔵めぐり」モニターツアーの開催

(1) 「かるやか」コース (日帰り)

①開催日：12月13日(土)

③コース：酒蔵見学(丸本酒造)、JA岡山西直売所、日本酒講座(西爽亭)
玉島円通寺散策、酒蔵コンサート(菊池酒造)

③参加者：27人(男性：14人、女性：13人、県内：26人、県外：1人)
(50歳代～60歳代：78%)

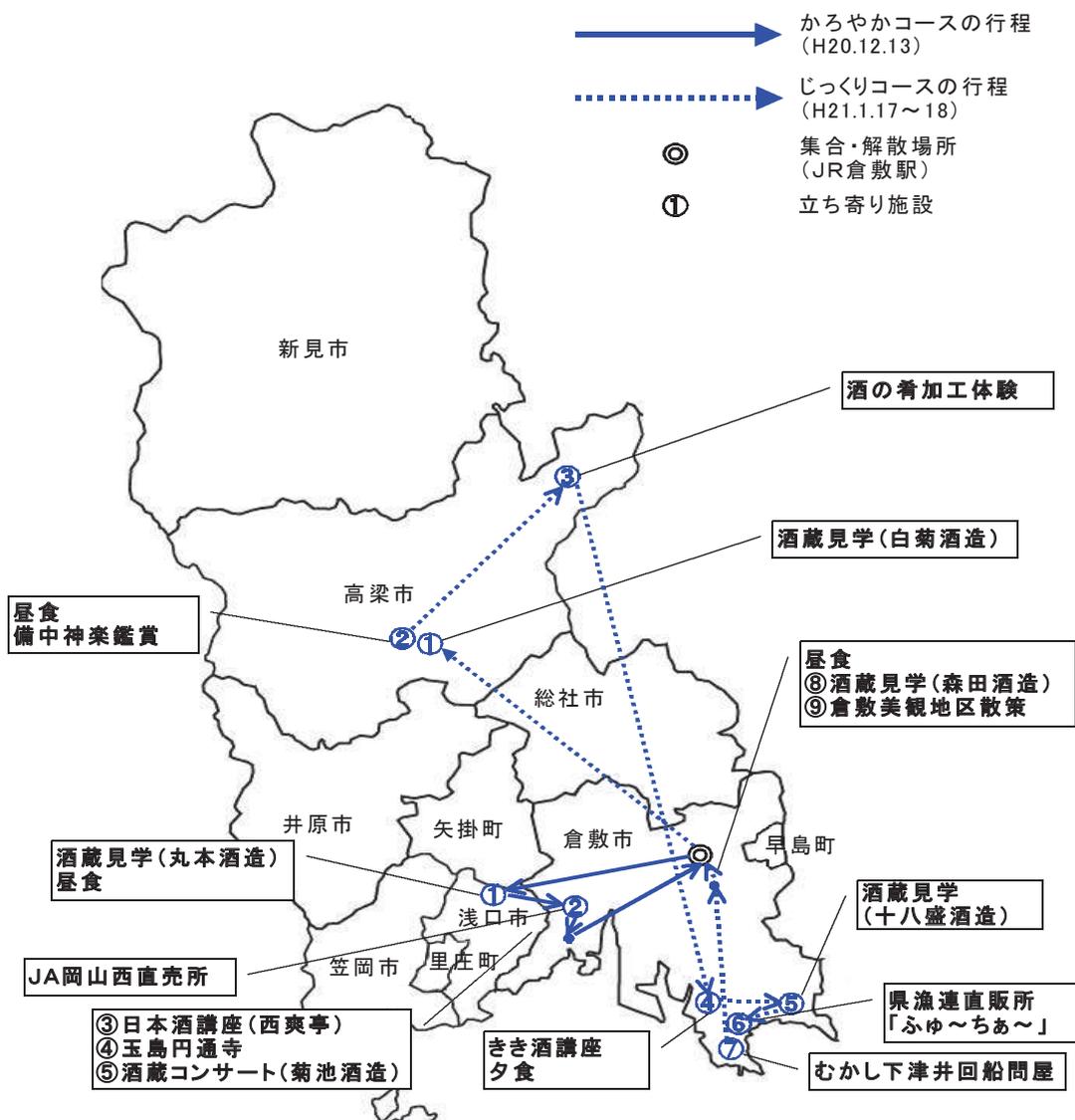
(2) 「じっくり」コース (1泊2日)

①開催日：1月17日(土)～18日(日)

②コース：酒蔵見学(白菊酒造)、備中神楽、酒の肴加工体験(農産工房「蔵里」)
きき酒講座、酒蔵見学(十八盛酒造)、県漁連直販所「ふゆ～ちあ～」
むかし下津井回船問屋、酒蔵見学(森田酒造)、倉敷美観地区散策

③参加者：31人(男性：19人、女性：12人、県内：31人)
(50歳代～60歳代：74%)

「酒蔵めぐり」モニターツアー コース図



経済学定年退職者協会の協賛で開催される「酒蔵めぐり」モニターツアー

備中地域広域観光振興企画
備中の酒と食の文化をめぐる旅

備中の郷

モニターツアー参加者募集

岡山のはら、高梁の「備中の郷」とは自分たちが暮らす土地だから、
「備中地域おこし協力隊」にも、地元産品、備中の酒蔵と食文化を体験しながら、
知る機会をおとさない。各地で収穫する季節に合わせた
現在でも、おれおれと酒蔵めぐりを取り入れながら、各地の酒蔵で、その
伝統的な酒造技術を知ることが出来る。
また、備中地域は、良い酒を造る酒蔵、おいしい「備中の郷」の酒の
三つの要素が揃った環境であり、酒蔵めぐりの食文化は、備中の郷
風土や、豊かな気候と気候を享受する高梁川
備中の個性ある酒づくりの現場と豊かな自然がはびこる伝統的な
食文化を味わってみませんか。

Aコース 「**かろやか**」コース
日帰り
平成20年 **12月13日** 土
参加人数 **30名** 参加費 **5,700円**

Bコース 「**じっくり**」コース
1泊2日
平成21年 **1月17日** 土～18日 日
参加人数 **30名** 参加費 **19,500円**

■主催/水辺のこころが ■共催/山陽新聞社 ■企画/備中地域広域観光振興協会 ■協力/岡山県連合会
■実行委員/山陽新聞社 総務部/山陽新聞社 編集局/山陽新聞社 印刷局/山陽新聞社

オシャレに備中の酒文化を楽しんでみませんか

Aコース 「**かろやか**」コース
日帰り
平成20年 **12月13日** 土
参加人数 **30名** 参加費 **5,700円**

行程・内容

8:00	【出発】JR倉敷駅	
10:00~11:30	酒蔵見学(丸木酒造)	酒蔵見学
11:30~12:30	昼食(丸木酒造)	酒蔵見学
13:00~13:20	JIA岡山山西吉売所	酒蔵見学
13:45~15:15	日本酒講座(酒蔵見学)	酒蔵見学
15:30~16:00	玉島円通寺敷席	酒蔵見学
16:15~18:00	酒蔵コンサート(酒蔵見学)	酒蔵見学
19:00	【到着】JR倉敷駅	

参加費に込め
はがき、FAX、または電子メールに郵便番号、住所、氏名、年齢、性別、電話番号、参加希望コース、参加人数を明記のうえ山陽新聞社倉敷本社広告部までお申し込み下さい。定員に達し次第締め切ります。

お問い合わせ(平日10:00~17:00)
山陽新聞社倉敷本社 広告部 TEL.086-421-6748 FAX.086-426-0006
E-mail surashiki-ad@sanpo.co.jp

自分だけのお気に入りを見つけに出掛けませんか

Bコース 「**じっくり**」コース
1泊2日
平成21年 **1月17日** 土～18日 日
参加人数 **30名** 参加費 **19,500円**

1日目 1月17日(土) 行程・内容

8:00	【出発】JR倉敷駅	
10:30~12:00	酒蔵見学(丸木酒造)	酒蔵見学
12:00~13:00	昼食(丸木酒造)	酒蔵見学
13:00~14:00	備中神楽舞臺	酒蔵見学
14:30~16:00	酒の加工体験	酒蔵見学
17:30~18:00	利休酒席(酒蔵見学)	酒蔵見学
18:00~20:00	夕食(酒蔵コンサート)	酒蔵見学

2日目 1月18日(日) 行程・内容

7:30	【出発】倉敷グランドホテル	
8:00~9:30	酒蔵見学(丸木酒造)	酒蔵見学
9:45~10:10	備中神楽舞臺(お茶会)	酒蔵見学
10:30~11:00	わかし下津路酒造酒蔵見学	酒蔵見学
11:45~12:45	昼食(酒蔵見学)	酒蔵見学
13:00~14:30	酒蔵見学(酒蔵見学)	酒蔵見学
14:30~15:30	倉敷美観地区散策	酒蔵見学
16:00	【到着】JR倉敷駅	

参加費に込め
本ツアーの内容について、終了アンケート、及びツアー報告特集(山陽新聞掲載)への取材対応をお願いする場合があります。

お問い合わせ(平日10:00~17:00)
山陽新聞社倉敷本社 広告部 TEL.086-421-6748 FAX.086-426-0006
E-mail surashiki-ad@sanpo.co.jp

「酒蔵めぐり」モニターツアー募集チラシ



かろやかコース (日帰り)



じっくりコース (1泊2日)

3 体験・学習観光ガイドブック「備中杜氏の郷」の作製

備中地域への誘客の動機付けを図るため、備中杜氏で名を馳せ、古くから備中地域で行われてきた酒造りを歴史的観点や地域の食との関係など様々な観点から紹介した体験・学習観光ガイドブック「備中杜氏の郷」(A5版、全カラー22頁)を1万部作製し、管内の市役所、町役場、観光協会、観光案内所等に配布した。

4 歴史・文化シンポジウム「備中杜氏今昔物語」の開催

(1) 日 時：平成21年2月15日(日) 13:00～16:00

(2) 場 所：倉敷国際ホテル

(3) 参加者：250人

(4) 内 容

①基調講演「酒の日本文化と岡山の酒造り」 講師：神崎 宣武氏(民俗学者)

②パネルディスカッション「備中の酒蔵から。新たなお酒文化の発信」

・パネリスト：渡辺 醇造氏(岡山県酒造組合副会長、白菊酒造株式会社取締役会長)

菊池 東氏(備中杜氏、菊池酒造株式会社 代表取締役)

加藤せい子氏(NPO 法人吉備野工房ちみち 代表理事)

森 喬氏(備中地域広域観光振興協議会 会長)

・コーディネーター：鳥越 良光氏(岡山商科大学大学院 教授)



基調講演



パネルディスカッション

成果・効果

- 1 広域観光モデルコース「鉄の径」について、民間旅行事業者による運行をすることができ、旅行商品化の第一歩とすることができた。
- 2 備中地域での酒造りの歴史や文化、地域の食との関係をテーマとした産業・学習観光の広域観光モデルコース「酒蔵めぐり」を新たに造成し、情報発信(ツアー運行、ガイドブックの作製)することができた。
- 3 産学官の協働により、備中地域の歴史、文化、伝統等の地域資源をつなぐ、地域固有のストーリー性を持った学習・体験型、交流型の広域観光コース「鉄の径」及び「酒蔵めぐり」を情報発信することによって、交流人口の増大による地域活性化に繋がることができた。
- 4 歴史・文化シンポジウムの開催により、地酒を通して備中地域の歴史・文化を多くの人に知ってもらうとともに、地域資源の活用について考えるきっかけづくりを行った。

平成20年度夢づくり協働推進事業の実施状況 5

事業名

地域間交流促進モデル事業

事業の概要

過疎化・高齢化が進む中山間地域の活性化を図るため、都市住民との交流を拡大し、二地域居住や定住に結びつける必要がある。このため、市町や地域団体等に対して地域資源を活かした都市住民との交流や農山漁村体験プログラムづくりを働きかけ、交流体験プログラムの実施を支援するとともに、受入体制の整備を行った。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
高梁市中央高原三地域懇談会 高梁市成羽町観光協会吹屋支部 高梁市成羽町中野地区	交流・体験プログラムづくり（企画） 交流・体験事業実施
高梁市	交流・体験事業の企画・実施の支援、連絡調整
県民局（協働推進室）	交流・体験事業の企画・実施の支援 参加者募集（チラシの作成、広報、参加者取りまとめ等）、モニターツアーバスの運行

実施状況

1 モデル地域の指定

- (1) 事業実施地域：高梁市成羽町中野地区
- (2) 高梁市中央高原三地域懇談会、高梁市成羽町観光協会吹屋支部及び高梁市成羽町中野地区の代表者、高梁市、県民局で構成する打合せ会議（ワーキンググループ）を設置した。

2 交流・体験プログラムの策定

打合せ会議開催日	内 容
6月 6日（金）	高梁市、県民局の協議 モデル地域の選定、地域間交流促進モデル事業の進め方等
6月27日（金）	高梁地域「協働推進会議」 都市と農村の交流を通じた中山間地域の活性化に向けて都市・農村交流の取組についての事例発表や意見交換

打合せ会議開催日	内 容
7月15日(火)	高梁市中央高原三地域懇談会等、高梁市、県民局の打合せ交流・体験事業(モニターツアー)の開催時期、開催場所及び体験・交流内容、参加者募集対象(関西地区の都市住民)協議
8月28日(木)	高梁市中央高原三地域懇談会等、高梁市、県民局の打合せ交流・体験プログラム(モニターツアー開催日、開催場所及び交流・体験内容、スケジュール、募集人員、参加費等)協議
10月29日(水)	高梁市中央高原三地域懇談会等、高梁市、県民局の打合せ交流・体験プログラムの最終確認

3 都市部への情報発信等

(1) 情報発信

関西方面の都市住民を対象に募集チラシを配布(9月6日開催の「晴れの国おかやま交流・定住フェア2008(大阪市北区、アクスネット梅田)において募集チラシ配布、JAあしん館宝塚店等に募集チラシ設置、平成19年度備中流グリーンツーリズムモニターツアー参加者へチラシ送付等)

(2) 「おいでんせえ備中・モニターツアー」(都市・農村交流体験モニターツアー)の実施

①開催日：平成20年11月10日(月)

②場 所：高梁市成羽町中野 中野生活改善センター等

③内 容：そば打ち、おにぎり・こんにゃくづくり、たまねぎ苗植え、白菜収穫体験

④参加人数：54人(男性：17人、女性：37人)

(宝塚市ほか関西在住の方、50～60歳代が68%)



そば打ち体験



野菜収穫体験

4 事業実施結果報告会の開催

(1) 開催日：平成20年12月8日(月)

(2) 場 所：高梁市成羽町中野 中野生活改善センター

(3) 参加者：高梁市中央高原三地域懇談会等、高梁市、県民局

(4) 内 容：アンケート調査結果及び今後の事業の進め方について

成果・効果

- 1 事業実施地区、市、県による協働推進体制の整備ができた。
- 2 都市住民に対して、農村交流や農山村体験プログラムの情報発信を通して、中山間地域の魅力を紹介し、中山間地域への関心を高め、継続的な交流や定住に結びつける端緒とすることができた。
- 3 地域団体等に対して、地域活性化のために、地域資源を活かした都市住民との交流や農山村プログラムの継続的な実施の具体化に繋げていくことができた。

平成20年度夢づくり協働推進事業の実施状況 6

事業名

安全・安心の備中 備中地域自主防災組織の拡大支援

事業の概要

台風や地震など大規模災害に対し、地域の防災力の強化を図るため、県民局、市町、地域団体、防災NPO等のネットワークを構築し、中核となる自主防災組織の設置と育成の推進を行った。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
倉敷市、笠岡市、浅口市、矢掛町の住民	自主防災の活動
倉敷市、笠岡市	自主防災組織連絡協議会の設置
浅口市、矢掛町	(みんなで防災) 会場手配、参加者募集
県民局 (協働推進室)	(みんなで防災) 講座の企画・講師の手配

実施状況

1 自主防災組織連絡協議会設置の促進

自主防災組織活動の充実や組織率の向上を図るため、市内の自主防災組織等から構成される自主防災組織連絡協議会の設置を促進した。

(1) 倉敷市自主防災組織連絡協議会 平成19年11月1日設置

平成20年10月24日：防災講演会、自主防災組織の活動報告等

(2) 笠岡市自主防災連絡協議会 平成20年5月23日設置

平成21年1月22日・26日：AED講習会、2月9日：防災講演会

2 「みんなで防災」講座の開催

住民の防災意識を育み、防災活動への参加を促すため、浅口市と矢掛町において自主防災組織未結成の地区住民等に対して防災講座を開催し、自主防災組織の設置と育成の必要性を説いた。

(1) 浅口会場

①日 時：平成20年11月29日 (土)

②場 所：浅口市健康福祉センター

③参加者：250人



- ④講 演：「地域防災力を高める必要性について」
- ⑤講 師：神戸市・人と防災未来センター・語り部 野村 勝氏

(2) 矢掛会場

- ①日 時：平成21年2月28日（土）
- ②場 所：矢掛町農村環境改善センター
- ③参加者：250人
- ④講 演：「震災の体験 地域で行う防災活動の大切さ」
- ⑤講 師：神戸市・人と防災未来センター
語り部 秦 詩子 氏



3 防災講座等

住民の防災意識を育み、自主防災組織率の向上を図るため、管内市町ごとに開催される防災講座や自主防災組織等研修会に、県民局地域防災監が講師として出向き、自主防災組織の設置と育成の必要性を説いた。

- ・講座等での地域防災監講演等回数：19回

4 防災パネル展の開催

(1) 防災週間（8月30日～9月5日）の防災パネル展

- ①期間：平成20年8月30日（土）～9月5日（金）
- ②場所：倉敷駅前商店街ビオス憩いの広場
- ③参加団体：県民局、倉敷市、くらしき市民防災ネットワーク、日本防災士会岡山県支部、倉敷市災害ボランティアコーディネーター連絡会、倉敷商工会議所



(2) 防災とボランティア週間（1月15日～1月21日）

「減災を考える・防災パネル・グッズ展」

- ①期間：平成21年1月15日（木）～16日（金）
- ②場所：イオンモール倉敷
- ③参加団体：(財)岡山県生活衛生営業指導センター、岡山県生活衛生同業組合（食品関係7組合）、NPO法人・まちづくり推進機構、倉敷市、岡山県



成果・効果

- 1 住民の防災意識を育み、防災活動への参加を促すことができた。
- 2 自主防災の必要性を認識して、「自分たちのまちは自分たちで守る」という、地域住民の自衛意識と連帯感の醸成に役立った。

平成20年度夢づくり協働推進事業の実施状況 7

事業名

地球温暖化・ストップアクションー楽しみながら学ぶ備中エコワークショップー事業
「環境フェア in たかはし」

事業の概要

環境問題を一人ひとりが身近な問題として捉え、実践することが求められている中、吉備国際大学と協働し、県民が身近に参加できる環境学習の機会を提供することにより、循環型社会の形成に向けた環境保全意識の高揚や、環境行動の実践につなげた。

実施にあたっては、高梁市環境衛生協議会が主催する「環境フェア in たかはし」に参画して行った。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
高梁市環境衛生協議会	事業の企画・立案
吉備国際大学（環境経営学科）	事業の企画・立案、事業受託実施
備中県民局（環境課）	事業の企画・立案、事業委託実施

実施状況

- 1 開催日時：10月4日（土）～5日（日）の2日間
- 2 開催場所：高梁市中原町「ポルカ天満屋ハピータウン」
- 3 参加者：県民 約340名
- 4 内容：参加体験型ワークショップの開設
 - (1) 環境クイズの実施
 - (2) 環境漫談の実施
 - (3) 環境にやさしい買い物のアンケートを実施



環境クイズ



買い物アンケート

成果・効果

- 1 多くの県民が本環境学習に参加し、環境保全意識の高揚や、環境行動の実践につなげることができた。
- 2 大学生という若者の目から見た環境への提言は、市民にも親しみを持って受け入れられ、環境問題の啓発活動として優れた効果があった。

平成20年度夢づくり協働推進事業の実施状況 8

事業名

租税教育推進事業（租税教室開催）

事業の概要

税務署等の税務機関、税理士等の税務関係団体、小学校の担任教諭等と連携、役割分担して、小学校の高学年の児童を対象に租税教室を開催し、税金の意義、役割等についての知識を習得させ、将来的に県民の納税意識の高揚を図った。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
管内小学校 倉敷税務署 県民局（税務部）、税務署、市、税理士等	租税教室の開催、時間、場所確保 租税教室の開催調整、教育資材の提供 租税教室の講師

実施状況

備中県民局の実施状況

開催月日	開催小学校	租税教室参加者人数
1月16日	浅口市立金光吉備小学校	6年生1クラス 30人
1月20日	新見市立正田小学校	6年生1クラス 16人
1月28日	高梁市立高梁小学校	6年生1クラス 64人
1月29日	笠岡市立笠岡小学校	6年生2クラス 51人
1月29日	倉敷市立老松小学校	6年生2クラス 122人
1月30日	倉敷市立赤崎小学校	6年生1クラス 98人
2月10日	倉敷市立倉敷西小学校	6年生1クラス 58人

（参考）19年度県下租税教室開催状況

区分	小学校	中学校	高校	合計
開催校数	262	44	25	331
校数	427	175	96	698
割合%	61.4	25.1	26.0	47.4



赤崎小学校



倉敷西小学校



老松小学校

成果・効果

小学生に税金の役割、大切さ等を分かりやすく話すことにより、税金の重要性を理解させ、将来的に県民としての納税意識の高揚を図ることができた。

平成20年度夢づくり協働推進事業の実施状況 9

事業名

発達障がい児未来応援団事業

事業の概要

発達障害児は子育てのしづらさや対応の困難さから、児童虐待や不登校・引きこもり等の二次障害を引き起こす要因となることから、ライフサイクルに沿った体制づくりが急務である。

そこで、将来を見通した自立を支援するために、本年度は発達障害児の思春期以降についても焦点をあてながら、地域の関係機関や医療機関・親の会等が協働した体制づくりや各種事業を推進した。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
運営会議： ・親の会（ピュアハート総社・歩いていこう・ビリーブの会） ・行政福祉（早島・浅口・高梁・新見、児童相談所、備中県民局福祉振興課） ・発達障害者支援コーディネーター（新見市委託） ・保健（保健所：倉敷・井笠・高梁・新見、市町：総社・井原・高梁・新見） ・教育委員会（総社・笠岡・高梁・新見） ・幼稚園（総社市久代、高梁市高梁・新見市哲西） ・特別支援学校（西備・早島・健康の森） ・高等学校（矢掛・井原市立） ・保育所（早島町早島・矢掛三谷・高梁市高梁・新見市新見） ・吉備国際大学 ・NPO法人（Color、いちばんぼし、風の音） ・医療（総社市：三宅内科小児科医院） ・おかやま発達障害者支援センター	共通的な役割 ・情報交換 ・事業の計画作成や決定 ・進行管理 ・研修 グループ別役割 ・4グループに分かれ事業検討、実施協力 個別的な役割 ・学識経験者のアドバイス ・事業受託 ・専門的アドバイス //
備中県民局	・3事業の委託、運営会議の招集、会議の進行、直営事業の実施、事業の総合評価
倉敷・新見保健所	・直営事業の実施、
倉敷・井笠・高梁・新見保健所	・事業の総合評価

実施状況

1 運営会議

NPO法人、親の会、保育所、幼稚園、特別支援学校、高等学校、大学、医療、教育・保健・福祉行政等のメンバー43人で構成する運営会議（全体会）を年間5回開催し、発達障害に対する課題や連携について検討及び研修を行った。

また、グループ別に分かれ具体的事業の検討を行い、実施・評価をした。

2 ピアサポーター育成支援事業 業務委託先・・・NPO法人 Color

保護者自身同士が悩みや課題を共有したり、親の会としての取り組みを進めるために、「親の会」の支援を行った。また、「親の集い」では親の会が立ち上がっていない地域に対しては立ち上げるための機運づくりとなるように開催し、さらに、保護者が子どもに対してより適切な対応ができるように研修をあわせて実施した。

「おとうさん・おかあさん・こども交流大会」では、備中県民局管内の親子が広く交流することで保護者の視野が広がったり、子ども達にとっては社会体験が広がるように工夫し、また、親子ともどもリフレッシュできることを目的に開催した。

さらに、学生にとっては発達障害児へのより自然な形での接し方を学ぶ機会とした。

【企画会議の開催】 ピアサポーター育成グループメンバー 内容の協議

【親の会の支援】

管内にある5カ所の「親の会」の内の3カ所（ビリーブの会、歩いていこう、ぶどうの会）へセルフヘルプグループとしての成長を促すためにコーディネーター等を派遣した。

会名	ビリーブの会 (浅口市)	歩いていこう (井原市)	ぶどうの会 (高梁市)
参加者数	30人	23人	10人
コーディネーター名	香川大学 教授 武蔵 博文	NPO法人 いちばんぼし佐藤慶一	ビリーブの会・ 歩いていこう保護者



【親の集いの開催】

4保健所の4地域で「親の集い」を開催した。

実施年月日	実施内容等
共通	内容：講演、フリートーク 講師：川崎医療福祉大学 医療福祉学部 准教授 小林信篤 参加者：保護者、子ども、ピアサポーター育成支援事業グループメンバー

実施年月日	実 施 内 容 等
第1回 9月27日(土) 13:30~15:30	テーマ： 発達障がい児の行動の特徴 会 場： 高梁市成羽健康管理センター 参加者： 保護者22人 
第2回 10月4日(土) 13:30~15:30	テーマ： 幼児期から就学に向けての 支援 会 場： 新見市保健福祉センター 参加者：保護者21人 託児風景 
第3回 11月1日(土) 13:30~15:30	テーマ： 学校・地域との関わり 会 場： 総社市保健福祉センター 参加者： 保護者25人 
第4回 11月15日(土) 13:30~15:30	テーマ： 将来を見通した支援 会 場： 井原保健福祉センター 参加者： 保護者28人 

【おとうさん・おかあさん・こども交流大会】

実施年月日	実 施 内 容 等
10月16日	企画会議 ヒアホータ育成支援事業グループメンバー
12月6日 (土) 13:00 ~ 16:00	会 場：高梁市備中総合センター 内 容： ①レクリエーション (家族スタンプラリー、宝探しゲーム他) ②おとうさん交流会 (アドバイザー おかやま発達障害者支援センター所長 土岐淑子) ③おかあさん交流会 (アドバイザー 川崎医療福祉大学医療福祉学部准教授 武井祐子) ④おとうさん・おかあさん交流会 ⑤まとめ講演(土岐所長) 参加者：保護者22人(内父親8人)・こども25人・学生20人 合計67人

3 「体感研修会」 業務委託先・・・NPO 法人 風の音

関係者間の相互の連携や協力体制づくりを目指し、モデル事業を基に体感型研修を実施することで、子どもの困り感を知り、支援について考える機会とした。体感研修会を実施するにあたり、事前準備として企画会議、及び、学生に対する事前研修会、学生研修会を実施し、学生に積極的に体感研修に参加してもらった。

【体感研修会の開催】

実施年月日	内容・講師等
平成 20 年 10 月 25 日 (土) 13 : 30 ~ 16 : 00	会 場：新見市公立短期大学学術交流センター 内 容：①学生によるロールプレイ ②グループワーク ③まとめ講演 「『困った行動』には理由がある」 講師：中国学園大学子ども学部・子ども学科 教授 荻野竜也 氏 ④図書の展示 参加数：支援者 21 人、保護者 21 人、学生 20 人 合計 62 人
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>ロールプレイ中</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>講義中</p> </div> </div>	

【企画会議の開催】 体感研修会グループメンバー 内容の協議

【事前研修会の開催】

実施年月日	内容・講師等
平成20年 9月27日 (土) 10 : 00 ~ 11 : 30	会 場：新見市公立短期大学学術交流センター 内 容：事業説明・ロールプレイ・ディスカッション 講 師：中国学園大学子ども学部・子ども学科教授 荻野竜也 氏 参加数：学生 3 1名

【学生研修会の開催】

- ①発達障害児のモデル事例を基に体感型研修をすることで、子どもの困り感を知り、学生なりの支援について考える機会とした。
- ②発達障害児に関する学生ボランティアを育成した。
- ③学生研修会終了後体感研修会に参加することで、発達障害児を支援する関係機関と知り合う機会をもつ。

実施年月日	内容・講師等	
平成20年 10月11日（土） 13：30～16：00	会場：新見市公立短期大学学生会館 内容：事業説明 ロールプレイ グループワーク 全体ディスカッション 講師：吉備国際大学社会福祉学部 教授 保積功一 氏 参加学生数：28人	

- 4 「事例集作成」 業務委託先・・・NPO 法人 いちばんぼし
発達障害児のそれぞれの個性を理解し、寄り添う支援をしていくために、保護者や保育、教育現場での対応事例を収集した事例集を作成し、関係機関、保護者（親の会）等に配布し、今後の対応への参考にしてもらうことを目的とした。

【企画会議の開催】

事例集作成グループメンバー 企画の検討他 7回 36人

【事例集】配布先

備中県民局管内全保育所・幼稚園・小学校・中学校・
特別支援学校（岡山南を含む）親の会等約370カ所



- 5 「出前講座」 直営・・・倉敷保健所・新見保健所

発達障害が疑われる子どもの多くは、幼児期の集団生活の場で、行動上の問題がよく出現しているため、子どもが集団生活を営んでいる保育所・幼稚園等の保育士・幼稚園教諭に対し、アンケート調査を行うとともに、専門家、保健師等を派遣して具体的な現地研修を実施した。

【実施状況】 実施時期：平成20年7月～平成21年3月

市町名	実施指導所・園数	指導保育士教諭数	指導園児数	派遣講師名
総社市	7カ所 13回	94人	122人	特別支援スーパーバイザー 杉 哉子
早島町	4カ所 8回	33人	95人	相談支援相談員 大岡孝之 早島養護学校 発達障害児コーディネーター 教諭 横畑洋子・田村増江
新見市	4カ所 7回	14人	47人	児童相談所 児童心理士 藤田美穂
その他	派遣講師	管轄保健所	保健師、市町保健師	行政保育担当（総社市）

- 6 「思春期対応事業」 直営

思春期以降の発達障害児はその障害特性のために、就労に困難を抱えたり、二次障害を引き起こすことがある。そのため、

- ①二次障害予防の視野に入れた実態調査を実施し、今後の対応を考える基礎とする。
- ②保護者・関係者の話から就労に関する現状を知り、併せて、家族を含む関係者が発達障害のある人の自立と就労のために「今後、どのように関わるべきか」を考えるためのシンポジウムを開催した。

【企画会議の開催】 思春期対応事業グループ アンケート内容の検討他

【思春期以降の発達障害児の実態把握に関するアンケート調査他の実施】

・アンケート等依頼先：82小中学校、11高等学校、5親の会、4保健所

- ①小学校5年生以上中学3年生（通常学級、特別支援学級）の担任（倉敷・高梁・新見保健所管内）

- ②高等学校1～3（定時制4）年の全担任（井笠保健所管内全高等学校）
 ③親の会参加者（対象学年は①②と同様） ④保健所精神保健相談担当者

【就労関係ミニシンポジウムの開催】

実施年月日	平成20年9月19日 10:00～12:30		
会場	備中県民局 会議棟	参加者	93人（未来応援団メンバー15人）
テーマ：『発達障がい児・者の就労支援について ～現状と課題から考える今後の関わり方とは～』 ・コーディネーター 岡山県備中県民局健康福祉部福祉振興課障害福祉班長 菅野浩司 氏 ・シンポジスト 「親の立場から」 保護者 「相談を受ける立場から」 おかやま発達障害者支援センター所長 土岐 淑子 氏 「特別支援学校の立場から」 岡山県健康の森学園養護学校高等部 教諭 石川 隆一 氏 「職業相談の窓口の立場から」 倉敷中央公共職業安定所 専門相談部門 統括職業指導官 細川 一成 氏 「就業・生活支援の立場から」 倉敷障害者就業・生活支援センター支援員 大島美栄子 氏 ・意見交換・まとめ			
			

成果・効果

- 1 備中県民局管内広域で開催したことで、市町や関係機関等が課題の把握や情報収集を行うことができ、生活に身近な地域で新たな支援体制の拡充（出前講座の市町実施、自立支援協議会こども部会活動の活性化等）や充実（新しい親の会の発足）につながった。
- 2 管内市町の保健・医療・福祉・教育等の支援者と、保護者及びNPO法人等が、それぞれの役割や現状の情報交換、研修を継続して行ったことで、相互理解が深まり良好な支援関係につながった。また、グループ別に各種事業を展開したことで、より強い協働体制が推進された。
- 3 ライフサイクルに沿った体制づくりの一環として、乳幼児、学童時期のみでなく思春期、青年期の発達障害児に対する支援の具体的な支援システム、支援方法の構築の必要性を運営会議メンバーで確認できた。

平成20年度夢づくり協働推進事業の実施状況 10

事業名

子育てカレッジの実現

事業の概要

大学を核とし、学生も参加する親子交流や現場保育士などの課題解決研修等を地域協働で行う、大学内子育て支援拠点子育てカレッジ提唱・推進、大学研究と地域活動、行政施策の連携を促進するなどの大学の子育て支援参画をテーマに取組を行った。

県職員が地域の人々と一緒に子育てカレッジなどの実現・充実について考え、支援するとともに、様々な機会を設定し、現状では十分と言えない大学・地域・行政協働についての気運醸成を行うとともに、協働の仕組検討・研究、提案を行い、にいみ子育てカレッジ実現・充実や他大学での検討開始、大学と地域・行政との交流実施と併せ、今後、岡山県全域で展開される大学を核とした産・学・官・民協働子育て支援岡山モデル創造に向けて基礎づくりを行った。

協働の主体、役割分担

【子育てカレッジ第1号にいみ子育てカレッジのケース】

協働の主体	役割分担
新見公立短期大学	協働ミーティング参加 運営協議会（運営委員会、評価委員会等）参加 子育てカレッジ事務局設置 キャンパス内施設提供 事業実施（学生も参加する親子交流ひろば、教員による保育士、幼稚園教諭等に対する研修、子育てカレッジHPによる子育て情報発信等）
新見市（社会福祉課、健康づくり課、学校教育課、生涯学習課）、新見市主任児童委員連絡部会、新見市愛育委員会、新見市栄養改善協議会、新見市保育協議会、新見市内保育所、新見市内幼稚園、新見市社会福祉協議会、新見保健所、新見子どもセンター協議会、新見市幼児クラブ交流事業実行委員会、新見商工会議所等	協働ミーティング参加 運営協議会（運営委員会、評価委員会等）参加 事業実施（短大学生に対する現場の実情等の講義、子育てカレッジHPによる子育て情報発信、子育てボランティア等の連携、育成等） 子育てカレッジ実施事業等の発信 参加者とりまとめ等 各団体開催事業の子育てカレッジ事業との共催
県民局（健康福祉部）	子育てカレッジ提唱 協働ミーティング参加 運営協議会（運営委員会、評価委員会等）参加・協力 拠点運営手法・ひろば事業実施研修等への補助、安定的・効果的運営確保についての提案・支援等

実施状況

1 先進モデル（にいみ子育てカレッジ）支援

（1）にいみ子育てカレッジオープン

にいみ子育てカレッジが、備中局の提唱に呼応し、平成20年4月6日に新見公立短期大学キャンパス内にオープンした。

学生親子交流広場



支援者への専門研修



オープン(20. 4. 6)



（2）協働ミーティング

実施詳細未決定の事業についての議論をサポートした。

（3）先進モデル構築支援

子育て情報発信体制の構築、全国への運営やひろば実施についての研修経費についての補助、子育て座談会の試行、安定的・効果的な運営確保の枠組みについての提案など様々な支援を行った。

2 子育てカレッジ提唱・推進等

（1）子育てカレッジ提唱・推進

協働推進会議、子育て情報誌掲載、TV・ラジオ報道などにより子育てカレッジの目的・内容等を発信しながら、管内大学へ個別訪問を行った。興味を示し、検討を行っている大学、市への実現へ向けてのサポートを継続している。

（2）子育てカレッジシンポジウム

「子育て支援に関するより良い大学・地域・行政の協働」のあり方・可能性についてのシンポジウムを開催した。

①開催日：平成20年12月13日(土)

②場 所：岡山県立大学

③内 容

1) 大学講堂において 13:00～17:30

・記念講演、基調講演

・パネルディスカッション

・パネル・ポスター展示による子育て支援に関する取組紹介

2) 学部共通棟の講義室において 9:45～11:45

・子育て支援座談会

3) 学生会館3階において 10:00～16:00

・にいみ子育てカレッジ親子交流ひろば「にこたん」の出張実施

④参加人数：400人

⑤新聞掲載：平成20年12月22日(月)にシンポジウムに関する特集記事

パネルディスカッション



全国の大学内子育て支援事業ポスター展示



模擬親子学生交流ひろば(学生会館多目的スペース)



(3) 備中子育て晴れの国交流会

大学関係者、地域の子育て支援関係者、行政関係者、子育て中の親などの交流会を実施し、大学と地域、行政との連携へ向けた話し合いや子育てカレッジへ取り組むに当たっての課題整理・情報交換などを行った。



3 子育て支援に関するより良い大学・地域・行政の協働のあり方・可能性に関する調査

(1) 全国状況等の調査

大学の子育て支援に関する研究、具体的な大学内子育て支援事業の運営・実施状況に関する調査と併せ、全国的なひろばなどの子育て支援拠点の状況・方向性に関する調査を行った。

<調査先>

全国保育学会（開催地 名古屋市）、東横学園女子短期大学（東京都世田谷区）、昭和女子大学（東京都世田谷区）、神戸市役所、神戸大学サテライト「のびやかスペースあーち」（神戸市）、滋賀短期短期大学（滋賀県大津市）、平安女学院大学（大阪府高槻市）

昭和女子大学（東京都）



(2) 子育てカレッジ報告書

備中県民局等による大学の専門知識等を活かした協働子育て支援拡大への取組状況等の報告書を作成した。

成果・効果

- 1 備中県民局の子育てカレッジ提唱に呼応して、にいみ子育てカレッジが平成20年4月に新見公立短期大学キャンパス内にオープンし、親子交流広場に一日平均50人程度の親子が訪れ、専門研修には前期約100人、後期約60人の子育て支援者等が参加するなど、学生や教員などの大学関係者や地域の方々が、交流し、学び合っている。
また、平成21年度から新見市の地域子育て支援拠点事業として位置づけられるなど子育てカレッジが地域に根付き、市の子育て支援の中核として期待されている。
- 2 子育てカレッジシンポジウムでは、全国、県内の大学関係者を始め多くの子育て支援関係者が参加し、備中晴れの国交流会では、大学・地域・行政関係者が知り合い、お互いに求めるものを伝え合うなどの交流を行った。また、TV、新聞等で子育てカレッジが報道され、子育て支援での大学・地域・行政協働について、その効果・可能性の認識を広げるとともに、協働への気運醸成を行い、子育てカレッジの発信、効果的な仕組みづくりなどへの示唆を得た。
- 3 全国調査により、大学の地域子育て支援研究、学内親子交流などの取組の全国的な拡大傾向や具体例、地域との連携が課題であるなどの状況を把握するとともに、現在の子育て支援についての方向性や地域子育て支援拠点で行われている内容、質向上などの方向性の把握を行い、大学・地域・行政協働の可能性、有用性への気づき、子育てカレッジの仕組みや大学研究と地域活動、行政施策との連携（協働子育て支援学会）検討への示唆を得た。
- 4 全国調査やシンポジウムなどにより、備中県民局の取組を発信し、全国の大学関係者などに共感を得た。また、(財)地域活性化センターがまとめる報告書の全国地域活性化事例にも選出された。
- 5 これまでの様々な取組の成果等を受け、子育てカレッジ報告書を作成し、全国的に珍しい取組の論点・検討状況・内容などを整理し、明らかにすることにより、子育て支援に関する大学・地域・行政協働の有効性・可能性の周知、子育てカレッジ実現等の手引きとして活用する。

平成20年度夢づくり協働推進事業の実施状況 11

事業名

晴れ晴れ子育て応援事業

事業の概要

支援者育成やつながりづくりを行いたい地域にNPOと県民局が出向き、市町と連携しながら、子育て支援を行う、または行いたいと考える個人や団体等と共に実行委員会を立ち上げ、子育て支援に関するワークと併せ、親子ふれあいイベント実施などの一つの目的に向かって、参加者同士で意見交換や学び合いを行い、共に汗をかくことによって相互理解や関係を深め、地域ニーズに沿った子育て支援事業の創出と、事業終了後にも続く支援者同士のつながりづくりを行った。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
NPO 法人保育サポート「あい・あい」 NPO 法人子ども劇場笠岡センター	高梁（あい・あい）、矢掛（子ども劇場）地域における事業の受託実施、実行委員会が行う事業の企画・立案のサポート <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援に関するワーク実施 ・実行委員会が行う地域に必要な子育て支援事業企画・立案のサポート 実行委員会構成員
ファミリーサポートセンター、たかはしレクリエーション協会、高梁保育子育て支援センター、おはなしたまてばこ、川上子育てサポーター、高梁市子供会連合会、高梁の福祉を考える会、主任児童委員、親子クラブ、地域の子育てボランティア	実行委員会構成員（高梁） <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援に関する知識習得、学び合い ・実行委員会構成員（町外NPO、高梁市、県民局含む）相互の情報交換、つながりづくり ・つながりづくりの一環として地域に必要な子育て支援事業企画・実施
親子クラブ、子育てサークル tomato クラブ、絵本の会「ゆめ」、読み語りサークル「コロポックル」、人形劇サークル「じゃんけん・ぽん」、主任児童委員、備中西商工会矢掛支所婦人部、矢掛高校ボランティア部、矢掛町子育て支援センター、NPO法人ゆめ21やかげ、NPO法人倉敷子育てネットワークたんぽぽファミリー	実行委員会構成員（矢掛） <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援に関する知識習得、学び合い ・実行委員会構成員（町外NPO、矢掛町、県民局含む）相互の情報交換、つながりづくり ・つながりづくりの一環として地域に必要な子育て支援事業企画・実施
高梁市、矢掛町 県民局（健康福祉部）	事業実施、広報等の協力 実行委員会構成員

実施状況

1 晴れ晴れ子育て応援事業高梁地域実行委員会

平成20年8月19日の第1回目の実行委員会開催を含め計5回の実行委員会を開催し、子育て支援に関する知識等習得、つながりづくりの一環として、子育てブック、マップの作成、子育て応援ふれあいひろば「たかはし親子であそぼう！」を実施した。また、第6回目の実行委員会を11月28日に開催し、この事業を振り返った。

(1) 実行委員会

① 子育て支援にあたっての基礎知識に関する学び

- ・アサーティブトレーニング（傾聴と自己表現トレーニング）
- ・障がい理解
- ・遊びの伝承
- ・ヒヤリ・ハットの事例研究



アサーティブトレーニング

② 実施プログラムへの取り組み

- ・地域の子育てをとりまく課題の抽出
- ・課題解決のためのプログラム検討
- ・所属団体等にこだわらないチーム編成
- ・手作りおもちゃ製作
- ・子育て応援ブック・マップ製作



遊びの伝承



マップづくり



おもちゃづくり



たかはし子育て応援マップ

(2) 「たかはし親子であそぼう！」

① 日時：平成20年11月22日(土) 10:00～12:30

② 場所：高梁市勤労青少年ホーム

③ 内容：マップ展示、ブック配布、手作りボウリング、新聞紙プール、手作りもぐらたたき、玉入れ、お絵描き、ぬりえ、親子体操等

④ 参集人数：約110人（スタッフ含む。）



《実行委員感想抜粋》

「最初は事業趣旨がよく分からなかったが、回を重ねていくごとに少しずつ理解できた」
「出会えた方々と、これからもつながりを深めていきたい」「マップやブックを自分たちの手で育てていきたい」等

2 晴れ晴れ子育て応援事業矢掛地域実行委員会

平成20年8月22日の第1回目の実行委員会開催を含め計5回の実行委員会を開催し、子育て支援に関する知識等習得、つながりづくりの一環として、「晴れ晴れ子育て応援事業 in 矢掛 みんなあつまろうキッズひろば」を実施した。

また、第6回目の実行委員会を12月18日に開催し、この事業を振り返った。

(1) 実行委員会

①地域子育て支援の理解とつながりをもった子育て支援の効果への学び

- ・子どもをとりまく現状「今の子育て・昔の子育て」
- ・子育てNPO活動の事例紹介
- ・コミュニケーションワーク
- ・地域ぐるみの子育て支援の意義（グループワーク）
- ・相互理解と価値観の共有（グループワーク）
- ・子育て支援のポイント



本日のゴール(目標)	子育て支援ポイント!
<p>1. すべての子どもたちが豊かに育つ環境をつくるために、子育て支援者のネットワークの「つながっている」意識(気持ち)を再確認!</p> <p>2. ネットワークとして、つながっていくために、何をすべきかを確認し、できることを考えましょう。→確認してやると効果的!</p>	<p>子育て支援についてそれぞれの「やりがい」や「価値観」を共有しましょう。</p> <p>① ワークロードにそれぞれの子育て支援の成績を盛りこめる。</p> <p>② ワークロードのコメントはしばらく眺めて、自分が最も大事にした「やりがい」にきたるコメントを記載する。</p> <p>③ の雰囲気についてグループで情報交換。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんを丸ごと受け入れる ・支援者の価値観を押しつけない ・地域につながる関係性をつくる ・守秘義務を守る



②実施プログラムへの取組

- ・地域の子育てをとりまく課題の抽出
- ・課題解決のためのプログラム検討
- ・自分たちの「やりたいこと」に関する意見交換
- ・それぞれの得意分野を活かしたプログラムの企画

(2) 「晴れ晴れ子育て応援事業 IN 矢掛 みんなあつまろうキッズひろば」

①日時：平成20年12月7日(日) 10:00～13:00

②場所：矢掛町農村環境改善センター

③内容：段ボールトンネル、ボールプール、ハンドマッサージ、おもちゃ遊び
じゃんけん列車、読み語り、読み聞かせ、ママカフェ、もちつき 等

④参加人数：約600人（スタッフ含む。）



《実行委員感想抜粋》

「子育て支援について話し合いを重ねることにより様々な思いを知り、理解し、ひとつにまとまれた」「思いを共有し、後につながるつながりができた」「自分でもできることがあるということが分かった」「お母さんたちの力に驚いた。これからは一緒に力を合わせていけると感じた」等

成果・効果

- 1 支援者育成・資質向上、つながりづくりを目的に、子育て支援の現状や支援のノウハウなどに関するワークを実施し、その一環として、子育て応援ブック、マップ作成、親子ふれあいイベント開催など、子育て支援事業を企画、実施した。
ワークや子育て支援事業企画実施などを通じて、参加者同士（NPO、市町、県民局含む）時には衝突しながら議論し、共に汗をかくことにより、相互理解を深めあうことができた。また、各実行委員会の取組にNPOが相互参加することにより、実績あるNPO同士の交流を行うことができた。
- 2 参加者には、「自分でもできることがある。ということが分かった。」「何かをすれば、意見を言えば思いが現実になることを知った。地域の方の存在の大きさを知り感謝している。」「親も支援者になれるんだと分かった。」「町民性から協力・連携は難しいことだと思われていましたが、実行委員会として一つにまとまったと思います。皆さんと知り合え、つながりができました。」「新しい感覚を教えてくださいました。」など多くの気づきがあり、地域全体で子育てに取り組む気運も高まった。
- 3 この事業で作上げたつながりやブック、マップ、親子交流イベントなどを地域で育てていくことが期待され、新たな子育て支援の拠点づくりなどへもつながっていく可能性もあるのではないかと考えている。
- 4 子育て支援に関するワークと実際の地域子育て支援の取組をセットとして実施することで、参加者相互が理解し合い、つながりが深まり、そのつながりを活かして地域ニーズに沿った子育て支援事業を創出するという事業の手法が、新しい気づきや地域ぐるみの子育て支援において有効であることを検証することができた。

平成20年度夢づくり協働推進事業の実施状況 12

事業名

晴れ晴れ子育て応援団キャンペーン

事業の概要

備中地域全体で子育ての大切さや子育てしやすい環境づくりに取り組むため、管内各地で行われている産・学・官・民分野の様々な子育て支援活動等を各実践者作成のパネルで紹介し、子育ての安心感や子育て支援でつながる気運醸成を図った。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
NPO、子育て応援宣言企業、大学、市町村	各活動紹介パネル作成
県民局（健康福祉部）	企画立案、パネル設営

実施状況

おぎゃっと21 in 倉敷、子育てカレッジシンポジウム、晴れ晴れ子育て応援事業、備中子育て晴れの国交流会において、他の事業実施と同時開催によりパネル展示をゼロ予算で実施した。

展示期間	同日の実施事業	場所	市町
平成20年11月1日(土)	おぎゃっと21倉敷会場	チボリ公園アンデルセンホール	倉敷
平成20年11月22日(土)	晴れ晴れ子育て応援事業 IN 高梁	高梁市勤労青少年ホーム	高梁
平成20年12月7日(日)	晴れ晴れ子育て応援事業 IN 矢掛	矢掛町農村環境改善センター	矢掛
平成20年12月13日(土)	子育てカレッジシンポジウム	岡山県立大学	総社
平成21年2月6日(金)	備中子育て晴れの国交流会	備中県民局	倉敷

成果・効果

様々な分野での、様々な取り組みを知ることにより、「子育てについて、こんなに考えられてるのかと安心した。」「どこもよく工夫されてすばらしい。良いところは参考にしたいと思った。」など、親子には子育てがいろいろな方々に支えられていること、支援に携わっている方々には、子育て支援のさらなる広がりの可能性などを感じていただくことにより、安心感や子育て支援でつながる気運醸成が図られた。

平成20年度夢づくり協働推進事業の実施状況 13

事業名

備中子育て晴れの国交流会
備中子育て晴れの国ホームページ開設

事業の概要

備中全域で、子育てをキーワードに人や情報の交流が進み、互いに高め合う関係作りのため、全国規模で活動されている先生方と一緒に、地域全体でつながり支える子育てについて理解を深めあう備中子育て晴れの国交流会を開催した。

また、備中局管内で子育て支援情報等の共有、つながりをもった子育て支援への気運醸成、取組の質向上や意欲向上を図るため、子育て支援の好事例紹介、管内市町及び県の子育て支援情報、「備中子育て晴れの国」の考え方や具体的な取組手法・結果などを継続的に発信するホームページの開設を行った。

協働の主体、役割分担

【備中子育て晴れの国交流会】

協働の主体	役割分担
NPO法人わははネット(理事長) 日本福祉大学子ども発達学部(教授)	子育て支援講演における先進的取組紹介及び 備中子育て晴れの国交流会での講演、意見交換、 交流
大学関係者、NPO、ボランティア、 地域子育て支援拠点スタッフ、保育士、 主任児童委員、幼児クラブ関係者、 子育て中の親 等	備中子育て晴れの国交流会での受講、意見交換、 交流
管内市町 県民局(健康福祉部)	備中子育て晴れの国交流会の開催及び交流会で の受講、意見交換、交流

実施状況

1 備中子育て晴れの国交流会

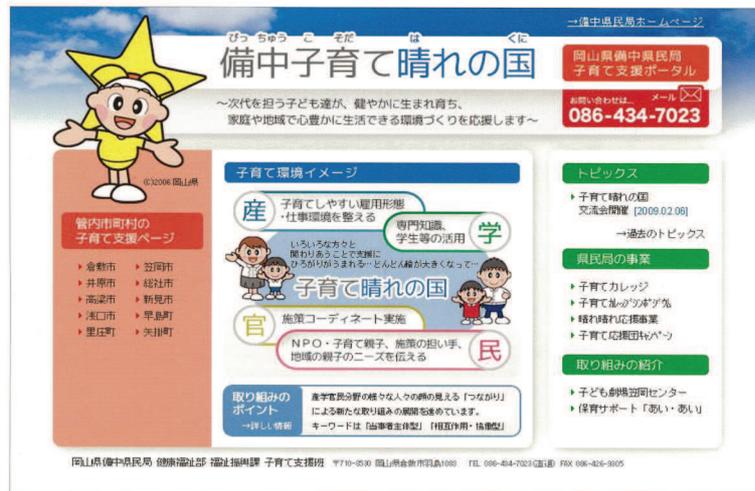
つながりを持った地域全体での子育て支援についての講演、さまざまな子育て関係者、同じ立場の子育て関係者との出会い、学び合いのためのワークを行った。

- (1) 日時：平成21年2月6日(金) 10:00～16:30
- (2) 場所：備中県民局会議棟
- (3) 内容：講演会(10:00～12:00)、座談会(13:00～16:30)
- (4) 参集人数：約90人



2 備中子育て晴れの国ホームページの開設

子育て支援の好事例紹介、管内市町及び県の子育て支援情報、「備中子育て晴れの国」の考え方や具体的な取組手法・結果などを継続的に発信するホームページを開設した。



成果・効果

1 備中子育て晴れの国交流会

- (1) 管内のさまざまな分野の子育て支援関係者が、一堂に会し、講演・ワーク・交流を行うという、初めての試みであったが、定員を超える方々の参加があった。
- (2) 参加者からは、「これまでは違う立場の人はもちろん、同じ立場の人とも交流がなかったが、この会で知り合い、情報交換をすることができ、大変有意義な会であった。」
「色々な方の活動や違う立場の考えなどを聞くことができ、参考になった。」
「様々な立場の方と知り合いになれた。」
「地域のあらゆる方とのネットワークの必要性を感じた。」
「このような交流や情報交換の場がほかにないので、これからも実施してほしい。」等の感想が多数寄せられた。
- (3) 交流会を通じて、相互理解の重要性とつながりをもった子育て支援の意義が認識され、地域全体で子育てに取り組む気運が高まるとともに、交流会の目的であるプラットホーム的なつながり作りや場の創出が切望されている状況が把握できた。

2 備中子育て晴れの国ホームページ

備中局管内で子育て支援情報等の共有、つながりをもった子育て支援への気運醸成、取組の質向上や意欲向上を図る。

平成20年度夢づくり協働推進事業の実施状況 14

事業名

中山間SUN・山プロジェクト

事業の概要

「支援される障害者から、地域を支援する側に」と発想転換し、中山間地域の生活の困り感を障害者の就労ニーズに変える地域協働推進事業を行う。障害者と高齢者がともに支え合う中山間のユニバーサルな協働共存のあり方に取り組んだ。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
<ul style="list-style-type: none"> ・新見市自立支援協議会の障害者支援ネットワーク構成団体（25団体）等 ・NPO法人100万回のサアーたいへん ・県民局（健康福祉部） 	事業企画・立案 事業実施に向けた意見交換・情報交換 事業実施

実施状況

1 先進地視察 「NPO法人てっちりこ」の見学

(1) 日時：平成20年12月3日（水）

(2) 参加者：ハートフル・あしん、風の音、健康の森、100万回のサアーたいへん
 新見障害児者と共に歩む会、新見市 他 計60人

(3) 内容

「NPO法人てっちりこ」の概要説明を受けた後、姫唐辛子わらない藁緞の見学、精神障害作業所「ふきのとう」との交流会を開催するとともに奥津道の駅において、てっちりこ製品の販売を見学した。



交流研修会



姫唐辛子藁緞風景

2 日本一親子孫水車「ゆめすき公園交流会」の開催

(1) 日 時：平成21年2月15日(日)

(2) 参加者：NPO法人100万回のサーーたいへん、NPO法人ハートフル・あしん
NPO法人風の音、健康の森学園、新見障害児者と共に歩む会、新見市連
合婦人会、新見市栄養改善協議会、地域長寿会、新見市 他 計150人

(3) 内 容

現在、夢すき公園「親子孫水車」が十分管理されていない状態となっていること
から、地元住民、福祉関係者、障害当事者等が協働して、交流会を開催した。

今後は、関係者が協働して公園の管理等をめざす契機となった。



新見市長を迎え交流会開催



地域の児童と障害者のそば打ち体験交流

成果・効果

- 1 障害者支援団体、親の会、事業者が協働で新見の障がい者の将来について真剣に議論した。その結果、定期的な協働ミーティングの場ができた。
- 2 障害者の将来に参考になる先進地域の情報を協働で集めた。地域で初めて自発的に協働し資料分析、見学を通して計画の立案から実施に至った。
- 3 「てっちりこ」見学により、お互いの長所短所が鮮明となった。今回、視察した「てっちりこ」の所在地同様、新見市は、県北の中山間地域であり、温泉、ダム、特産品の宝庫等、共通点が多数あり、地域の人と障害者との相互理解、仕事や協働する交流の場の確保等が課題となった。
- 4 地域の眠っている社会資源（神郷親子孫水車）の再生プロジェクトに向け取組が始まった。

平成 20 年度夢づくり協働推進事業の実施状況 15

事業名

地域食育推進活動

事業の概要

総社市栄養改善協議会を食育推進モデル地区として指定し、昨年度、山手地区で実施した食育の実践を市全域に広げるよう取り組んだ。また、引き続き「山手地区食育をすすめる会」において地区活動を実施した。特に平成20年度は、学校と連携して子どもたちに朝食メニューを募集し、入賞作品を学校給食や地域の飲食施設で取り上げるなど地域ぐるみで食育に関する事業を実施した。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
倉敷保健所管内食育推進協議会 (地域の健康づくりボランティア、教育関係者、栄養士会、医師会、農業協同組合、栄養学学識経験者、行政、倉敷保健所等で構成 19人)	管内の食育活動の企画 事業実施協力 情報交換、情報発信 事業評価
総社市栄養改善協議会	事業の企画、実施 (食育推進モデル地区事業全体調整)
山手地区食育をすすめる会 (総社市山手地域づくり協議会、総社市山手地区社会福祉協議会、総社市山手小学校、総社市老人クラブ連合会山手支部、山手地区愛育委員協議会、山手地区栄養改善協議会他 10 団体)	事業の企画、実施 (総社市山手地区での食育活動)
県民局 (倉敷保健所)	事業の企画、実施、評価 (関係機関との調整等) (食育推進協議会の招集) (山手地区食育をすすめる会との連携、協働、支援及び会議の進行調整) 事業の総合評価

実施状況

1 倉敷保健所管内食育推進協議会の開催

総社市栄養改善協議会が全市的に食育推進を図るため作成した冊子「そうじゃの味」や平成19年度からの食育推進モデル地区である総社市山手地区における「山手地区食育をすすめる会」の取組報告のほか、各団体の食育推進活動についての意見交換を行い、平成21年度の食育推進の課題や方向性について検討を行った。

2 総社市栄養改善協議会における食育に関する活動

総社市栄養改善協議会は、17地区の栄養改善協議会が地域で草の根の栄養改善活動を行っており、平成19年度に食育推進モデル地区とした山手地区の食育活動を総社市全体に波及させるための取組の一つとして総社の伝統の味、地域に根付いた料理等を掘り起こし「そうじゃの味」として冊子にまとめた。

また、山手地区では「山手地区食育をすすめる会」を中心として地域に根付く食育を目指して活動を継続している。

(1) 冊子「そうじゃの味」の作成

それぞれの家庭や各地区で昔から作られていた行事食や郷土料理が、核家族化や食に関する意識の変化などにより伝承されにくくなっており、これらの料理が作られる機会は総社市においても減少している。後世に伝えていきたい料理を季節ごとにその地域で収穫された食材を使用し、作り方、分量などを整理し、写真を添えて冊子にまとめ、普及を図ることにより、食文化の伝承や地産地消の推進を行った。

(2) 山手地区食育をすすめる会の活動状況

食育関係16の団体・機関・行政で構成され、山手地区の食育を核となって推進している。

①「わが家のイチオシ朝ごはん」(朝食メニューコンクール)

平成19年度に実施した、食生活実態調査結果をもとに、子どもたちの朝食を充実させるため実施した。コンクールの入賞献立は平成21年2月5日の学校給食のメニューとして全市に普及するとともに山手地区内の「もてなしの館」で定食として平成21年2月9日～13日に紹介された。

また、リーフレットにまとめ、朝食充実のための資料として配布を行った。



②地区内で行われるイベントへの参加及び他団体組織との連携

吉備路商工会主催の山手地区「ドリームフェスタ」において子どもたちが自分で野菜入りホットケーキを焼くコーナー設け、自ら作ることの楽しさを学ぶ場の提供を図った。



ホットケーキ作ったよ

(3) 山手地区公民館まつり

イベントスペースを設け、大人向けには食育SATシステムを使用し、食事のバランスを診断した。

子ども向けには食育クイズを行い地域の食材への理解を深めた。また、手洗いチェッカーやATPを利用し正しい手洗い方法の体験や食育紙芝居を上演した。

これらを通じて食への関心や自分の食生活を振り返る機会の提供、衛生意識の向上などを図った。

また、地域の食材を中心とした食事バランスガイドのタペストリーを作成し、展示を行った。



食育SATシステム体験

(4) 山手地区健康福祉フェア

「わが家のイチオシ朝ごはん」優秀者の表彰を行った。また、選ばれた朝食メニューのなかから菜めしとミネストローネの試食を提供した。また、朝食メニューのアンケートでは食べてみたい朝食や普段食べている朝食に近い物などを回答してもらい、みんなで朝食を考えるきっかけとした。食育SATシステムによる食事バランスチェックも行った。



わが家のイチオシ朝ごはん試食

(5) 小学生の食育体験事業

備南食品衛生協会と共催し、山手小学校の子どもたちを中心に手打ちうどん作り及び工場見学、カルピス工場見学、食の科学実験などを通じて食の安全・安心についての理解を深めた



手打ちうどん作り

(6) 幼稚園における料理教室

親子でクッキングでは園庭で収穫したさつまいもを使い、栽培工程から調理までを楽しみながら体験した。3世代もちつきなど家族揃っての活動を通じて行事食に対する理解を深め、園児に対する食育を推進した。

① 保育園における料理教室

食育講演会は栄養改善協議会が担当した。桃狩りを行い地域の食材への理解を深めた他、園庭で育てた野菜等を調理することにより栽培工程から調理までを楽しみながら体験した。また、もちつきでは老人クラブと連携して事業を行った。親子クッキングでは親子で食事を作ることで食に対する関心を高めるなど、いろいろな事業を通じて園児に対する食育を推進した。



親子でカレーづくり

②愛育委員会、栄養改善協議会、母子クラブによる親子料理教室
健康づくりボランティアである愛育委員、栄養委員と母子クラブが合同で調理実習を行い、幼児に対する食育を推進した。

③愛育委員会、栄養改善協議会合同の生活習慣病予防教室
愛育委員と栄養委員が合同で生活習慣病予防教室を開催し、健康的な食生活の普及を行った。

④商工会による独居老人ふれあい事業
吉備路商工会女性部が地域の独居老人を対象に寿司などを提供し、食事を楽しむ会を開催した。



独居老人ふれあい事業

成果・効果

- 1 「そうじゃの味」の作成について
冊子を作る過程において、調理方法や使用する食材などを栄養委員同士が再確認でき、伝承をすることや来年度の普及に対する意欲が高まった。
- 2 山手地区食育をすすめる会の活動について
 - (1) 種々のイベントに参加することにより食育の推進を図ることができ、また、「山手地区食育をすすめる会」のPRができた。
 - (2) それぞれの構成団体の活動に加え、協力や協働で行えるものは情報交換をしながら共に取り組むことにより効果的に実施をすることができた。
 - (3) 「わが家のイチオシ朝ごはん」ではコンクール献立が学校給食として、全市に紹介されることや「もてなしの館」で定食として一般に提供していただくなど、地域への広がりが出ている。
 - (4) 2年間のモデル地区活動を行ったことにより、「山手地区食育をすすめる会」として、今後、食育事業等を企画し提案をしていく案が出ている。保健所には側面からの技術的、専門的支援（情報提供、話し合いの場の設定等総合調整）が求められている。

平成20年度夢づくり協働推進事業の実施状況 16

事業名

ビビッと備中！農林水産いきいきネットワーク

事業の概要

県、市町、農林水産関係団体をはじめ、多様な主体との協働により、農林水産業の発展と農山漁村地域の活性化等を進めるため設立されたネットワーク組織（H18年3月設立、構成96組織 H21年2月現在）により、一組織や団体では実現しにくい新たな試みや地産地消・食育など幅広い分野の活動を実施する。構成メンバーの誰もが主体となって取り組むことができ、実働できる組織体制としている。

地域主導・住民主役による取組を前提とし、県民局はネットワーク構成メンバーと対等の立場で、それぞれの意欲を実現させるためのコーディネートを行っている。

また、当該ネットワークでは、総会のような会議を原則として開催しないことから、組織の内部での報告を兼ねて、活動の計画や実績をホームページで幅広く情報公開している。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
幹事会	基本となる組織構成 [県民局（農林水産事業部）、市町・・・連絡調整]
活動本部	具体的な事業実施や活動を行う内部組織（複数） ネットワーク構成団体のうち、目的や事業内容に賛同する団体で構成 ネットワーク構成団体の発起により活動本部を設置

【活動本部の設置例】

▼第4回玉島港桃祭り～子ども達へ食育～（平成20年5月15日～平成20年7月31日）

おかやま玉島市場LLP、倉敷市（農林水産課、特産品推進室）、備中県民局（農業振興課、協働推進室、倉敷保健所）

▼大地産地消まつり（平成19年5月31日～平成20年3月31日）

天満屋ハピータウンリブ総社店、備中県民局農業振興課、農畜産物生産課、協働推進室、保健課、(有)ウカンファーマーズファクトリー、(株)薫製倶楽部、倉敷地方有機無農薬農産物生産研究会、倉敷地方農村生活交流グループ連絡協議会、(有)寿司一、ポテト研究会、くらしき作陽大学

実施状況

1 地産地消の推進

(1) 地産地消フェアの開催・参加

フェア名称	月 日	場 所	来場者数
玉島港もも祭り	7月20日	倉敷市玉島	約3,000人
大地産地消まつり	9月13～15日	総社市門田(天満屋リブ総社店)	約5,000人
高粱ピオーネ祭	9月27日	高粱市(市内直売所10ヵ所)	約2,400人
岡山県農林水産祭	10月4、5日	岡山市大内田(コンベックス岡山)	約53,000人
高粱地域地産地消フェア	10月18日	高粱市中原町(ホム天満屋パターソン)	約2,000人
新見地域地産地消フェア	10月18、19日	新見市高尾(JA阿新)	約15,000人
備中岡山たべられえ市	10月25、26日	倉敷市笹沖(イヅミ倉敷サブ店)	約6,700人
風ぐるまフェスタinうかん	11月23日	高粱市有漢町(うかん常山公園)	約20,000人
井笠地域地産地消フェア	11月30日	笠岡市平成町(笠岡ふれあい青空市)	約2,000人
ビビッと備中！年末感謝祭	12月13日	岡山市表町(天満屋岡山本店前)	約300人
玉島港雛めぐり	3月1日	倉敷市玉島(玉島商店街)	約300人



大地産地消まつり



高粱ピオーネ祭

延べ11回
来場者数
約109,700人

(2) ショッピングラリーの実施

直売所でショッピングし、レシートを集めて応募すると地域の特産品が当たる「ビビッと備中ショッピングラリー」を実施

開催期間：8月10日～11月30日

参加直売所：57

応募総数：2,665通

抽選会：1月11日



抽選会の様子

2 県内外への情報発信、都市と農山漁村の交流等

(1) アンテナショップの設置、レストランや百貨店への食材情報提供による県内外への売込

区 分	期日・場所・参加者	概 要
アンテナショップの販売強化出展イベント14回(予定)	7月12日～2月28日 兵庫県宝塚市	生産者による対面販売イベント等の実施により備中地域の特産品を販売強化
「おおさかの夕べ」で特産品PR	8月22日 大阪市・350人	関西地域の旅行、流通、報道関係者等を対象に特産品をPR
備中神楽イベントで特産品PR	9月20日 大阪府吹田市・500人	吹田市で開催された備中神楽の会場で特産品をPR販売
レストランへの食材売込 (株ぐるなび)	10月9日・大阪府・70人 1月20日・大阪府・700人 1月26日・岡山市・50人	ぐるなび営業担当者へのセミナー 関西レストラン商談会での特産品PR 県内レストラン参加セミナーでのPR
百貨店への特産品売り込み (有良品工房)	10月16日～3月31日 東京都	モニタリングで評価を得た特産品の首都圏百貨店でのテスト販売推進
アンテナショップコンサルティング(有良品工房)	11月18日～3月31日 兵庫県宝塚市	消費者が利用しやすい店づくりを進めるためのコンサルティング実施
直売所・農業体験システム 情報提供システム開発	2月・備中地域	
 		アンテナショップイベント 14回 レストラン食材紹介3回、約820人 新宿伊勢丹テスト販売 2商品
レストラン商談会での食材PR		アンテナショップコンサルティング

(2) 備中流グリーンツーリズムの実施

概 要	期日・場所	参加者
GREEN DAY 2008で直売所や体験施設を紹介	4月19日・高梁市	約3,000人
「デパ地下のサービスを直売所に」をテーマに、高梁市内10の直売所が研修会を実施	7月11日・高梁市	約30人
都市住民と地域住民が交流し、地域の活性化方策を探る備中流グリーンツーリズム事業を実施	11月11、12日・新見市 12月6日・高梁市有漢町 1月31日・笠岡市真鍋島	24人 51人 29人

(3) 農業体験等を通じた食育の推進

参加者	内 容
高梁市内幼稚園、保育所、小学校 参加予定児童・生徒：359人	時代の農業を担う若者を幅広く確保・育成するため、サツマイモや稲の栽培・収穫等の一連の農業体験を通じ、農業に対する関心や農村の大切さを醸成

3 その他

(1) 全国直売所研究会西日本ブロック大会の開催

期日・場所等	内 容
2月12、13日 井原市美星町、高梁市、総社市、倉敷市 参加予定者150人	魅力ある直売所づくりを進めるため、西日本を中心に先進的な直売所経営者が一堂に会し、基調講演や分科会等を通じ意見交換等を行う。

(2) 井原線沿線の地域活性化の推進

期日・場所等	内 容
毎月第1、2、3日曜日 井原駅、吉備真備駅、矢掛駅	井原駅、吉備真備駅、矢掛駅で地域特産品をPR販売する「井原線DE得得市」を開催し、線沿線地域の活性化と利用拡大を推進
募集期間：7月4日～9月5日 応募総数：41作品	井原線開業10周年を記念し、歌詞の一般公募によりキャンペーンソング「井原線DE行こう！」を制作 井原線開業10周年記念イベントの中で表彰式を実施
1月11日・井原鉄道各駅 約8,000人	「井原線ワンコインデー」で備中地域の特産品をPR販売

成果・効果

- 1 直売所や農業体験施設等が魅力ある情報をリアルタイムで発信できるシステムが完成し、今後は、直売所自らがこのシステムを活用して積極的に新鮮な情報を発信するための仕組みづくりや、システムを活用した直売所間の協働による農産物の相互補完をすすめるなどの新たな枠組み作りが必要である。
- 2 民間のノウハウを活用した百貨店等への特産品の有効な売り込み方法がネットワーク会員に浸透しつつある。今後、ネットワーク構成団体が積極的にこうしたノウハウを活用し、主体的なマーケティングが展開できるよう、成功事例の拡大とその紹介、構成団体の特色に応じた新たな民間サービスの発掘と情報提供を進める必要がある。
- 3 レストランセミナー等で備中地域の食材をPRしたところ、地場産食材に関心を持つレストランからの食材に関する問い合わせが増えつつある。地域の様々な農産物を集める直売所の機能とレストラン等実需者とを結び付けるための商談会やセミナーでの直売所紹介等を進める。
- 4 宝塚を中心として、「食」に対して関心が高い女性消費者によるアンテナショップのモニタリングシステムが構築されつつある。購買行動について、女性の生活に密着した感覚を活かし、新たな加工品やマーケティングツールの開発を進めるとともに、さまざまな職能を有する女性が意見交換できるネットワークづくりを進める必要がある。

平成20年度夢づくり協働推進事業の実施状況 17

事業名

都市住民との交流による中山間地域の活性化

事業の概要

過疎化・高齢化が進み、さらなる集落機能の低下、耕作放棄地の拡大が進みつつある中山間地域では、地域の担い手が不足し、地域住民だけでは地域コミュニティの維持、地域資源の保全が困難な状態となっている。

そこで、都市と農山漁村の交流に関心を持つ都市住民と地域住民が協働し、地域の課題解決策や活性化方策を検討し、都市住民との交流により中山間地域の活性化を図る。

また、地域の担い手（体験指導者、地域案内人）を育成し、都市住民との交流推進に向けて地域の受け入れ体制の構築を図った。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
地域住民、都市住民、旅行者、市町、県民局（農林水産事業部）	中山間地域検討会・交流会の企画、開催 各地域との連絡調整（市町） 都市住民に向けての情報発信、体験指導者研修会の開催（県民局）

実施状況

期日・場所	内 容
モニターツアーの実施	都市住民と地域住民が交流し、地域の活性化方策を探る内容を体験プログラムの中に組み込んだモニターツアーを実施した。
	①新見モニターツアー（平成20年11月11日～12日） 参加人数：24人 体験内容：そば打ち・果物の収穫・キムチ作り体験、伝統料理の昼食・交流会、自然観察等
	②有漢モニターツアー（平成20年12月6日） 参加人数：51人 体験内容：餅つき・味噌作り体験、酒蔵見学直売所での買い物等
	③真鍋島モニターツアー（平成21年1月31日） 参加人数：39人 体験内容：海岸清掃活動、しまべんで昼食・交流会 島内散策、よもぎ餅作り体験等

中山間地域検討会
体験指導者研修会



モニターツアーの成果を基に、体験指導者、地域住民、旅行業者をまじえ、今後の検討、意見交換等を実施した。

- ・参加者(関西の都市住民)のアンケート
- ・旅行業者から見たモニターツアーレポート報告

- ①平成20年12月8日 新見市役所
参加人数：8人 (新見モニターツアー検討等)
- ②平成21年1月19日 県民局高梁支局
参加人数：6人 (有漢モニターツアー検討等)
- ③平成21年2月26日 県民局井笠支局
参加人数：5人 (真鍋島モニターツアー検討等)

〈主な意見等〉

- ・年間を通じたメニュー作成と体験料金の明確化が必要である。
- ・企画提案にあたっては、採算面から35名以上で実施できるツアーが求められる。
- ・受け入れ窓口の一本化とコーディネーターの存在が必要である。

成果・効果

- 1 地域住民が主体となった中山間地域交流会を開催し、都市住民との交流が推進された。
- 2 旅行業者をまじえた研修会の開催により、専門家の意見を参考とすることで、体験指導者の資質の向上が図られた。
- 3 受入地域内のネットワーク強化が図られるとともに、旅行業者との企画連携等のルートが深まるなど受入体制の整備が進み、今後は地域住民が主体となって地域間交流を行える体制が整ってきた。

事業名

地域の森林づくり協働事業

事業の概要

本来、人の生活の一部として身近であった里山や竹林をはじめとする森林は、生活様式の変化や都市化により非日常の象徴となりつつある。

その一方で、地球温暖化問題を契機として森林のもつ多面的機能が注目され、森林を環境問題啓発を目的とした教育・研修の場として活用したり、地域住民の手によって地域の森林を守り育てようとする活動が各地で実践されている。

このため、地域で取組まれている里山保全や竹林整備などの森林活動について、イベントの開催、資機材の配備などの支援を行った。

1 里山再生協働事業

里山利用グループやNPO等の里山保全グループから、里山の保全や地域づくりにつながる活動に係る実施活動プランを公募し、活動経費の一部を助成した。

2 里山の竹林整備協働事業

(1) 竹林整備のつどいの開催

企業等のボランティアにより、手入れされず放置された竹林の除間伐と竹の利用を行った。

(2) 竹林整備体験学習会の開催

小学校等児童を対象として「竹林整備のつどい」で整備された竹林内でのシイタケ原木の伏込みや、伐採された竹の炭焼きなどの体験学習を行った。

3 鬼ノ城発掘跡地植樹活動支援事業

平成18年度から発掘調査されている鬼ノ城において、調査跡地の植樹を小学生や企業等により実施した。

4 彩りの森づくり協働事業

県民参加の森づくり事業や家族の森づくり事業で山火事跡地などに植栽してきたドングリのみ植栽地に、企業等のボランティアや小学生等の手により、花が咲き、実のなる樹種を補植した。

協働の主体、役割分担

1 里山再生協働事業

協働の主体	役割分担
里山を保全・活用するNPO法人、地域住民グループ等の里山保全グループ	里山の保全・活用 地域住民との連絡調整 他地域の里山保全グループとの交流
市町（総社市、井原市、矢掛町、高梁市、新見市）	里山保全グループとの連絡調整 里山保全グループの活動経費を一部助成
備中県民局・支局	里山整備計画指導、現地指導 里山保全グループ交流の連絡調整 里山保全グループの活動経費を一部助成

2 里山の竹林整備協働事業

協働の主体	役割分担
企業・団体等のボランティア 小中学校等の教育機関	活動への積極的な参加
真備美しい森管理運営協議会	活動への支援、協力、資機材の提供
倉敷市真備支所	活動への支援、協力
倉敷地域美しい森づくりの会	活動内容の企画・立案 参加者との連絡調整
備中県民局	竹林整備指導、森林環境教育

3 鬼ノ城発掘跡地植樹活動支援事業

協働の主体	役割分担
企業・団体等のボランティア 小中学校等の教育機関	活動への積極的な参加
岡山県古代吉備文化財センター	植樹場所（発掘跡地）の提供 鬼ノ城の歴史教育
倉敷地域美しい森づくりの会	活動内容の企画・立案 参加者との連絡調整
備中県民局	植樹指導

4 彩りの森づくり協働事業

協働の主体	役割分担
企業・団体等のボランティア 小中学校等の教育機関	活動への積極的な参加
倉敷美しい森管理組合	活動への支援、協力、資機材の提供
倉敷市児島支所	活動への支援、協力
倉敷地域美しい森づくりの会	活動内容の企画・立案 参加者との連絡調整
備中県民局	植樹指導

実施状況

1 里山再生協働事業

活動グループ	①新本地区区有山林管理会(総社市新本)			
活動内容	回数	人数	備考	
里山林内林道・散策道の整備、維持管理	3	95	9/27 他	
耕作放棄地・水路の整備	2	60	9/27 他	
里山林の整備(下刈り・間伐等)	3	75	11/29他	
シイタケの植菌・借り伏せ等	2	63	11/29他	



植栽地の下刈り

活動グループ	②後月ふるさと塾(井原市芳井町池谷)			
活動内容	回数	人数	備考	
親子ふれあい体験(芋掘り)	1	60	10/26	
親子ふれあい体験(花炭作り・竹メシ作り)	1	45	12/14	
里山林の整備(広場等の草刈り・紅葉の植栽)	5	110	11/23他	
炭焼き体験	2	30	11/30他	



紅葉の植栽

活動グループ	③下高末棚田保全組合(矢掛町下高末)			
活 動 内 容	回 数	人 数	備 考	
野菜の植付・播種の体験(キャベツ・ウカイ・大根等)	2	25	9/16 他	
野菜の収穫及び加工の体験(コニャク・焼き芋等)	4	117	10/14他	
収穫した野菜の販売	3	26	11/16他	
炭焼き体験	3	78	2/22 他	
里山林の整備(草刈り・枝打ち等)	4	59	12/19他	
里山林教室の開催(トングリ・刈拾い等)	3	60	10/6 他	



野菜の収穫
(サツマイモ)

活動グループ	④NPO法人ふれあいの里・高梁(高梁市宇治町)			
活 動 内 容	回 数	人 数	備 考	
ブッポウウツの生息環境整備(巣箱作り・生態調査)	2	77	11/30他	
ワシやタカの渡り観察会	1	43	9/23	
耕作放棄地再生作業及び河川清掃作業	2	33	12/16他	
里山林の整備(草刈り・桜の剪定等)	3	60	9/23 他	



ブッポウウツの巣箱作り

活動グループ	⑤哲多ふれあい農園組合(新見市哲多町花木)			
活 動 内 容	回 数	人 数	備 考	
カブトムシの飼育場・子供の遊び場作り	1	20	10/19	
農産物収穫体験	1	31	11/16	
竹林整備及び炭焼き体験	1	30	12/14	
里山林の整備	1	14	1/25	



椎茸の植菌

2 里山の竹林整備協働事業 (1) 竹林整備のつどいの開催

年月日	開催場所	参加者	参加者数	実施内容
H20. 10. 8	真備美しい森	中国電力(株)倉敷営業所	38	竹の伐採、枯竹・倒竹の整理、チップ化
H20. 10. 13	真備美しい森	崇教真光青少年育成会	88	竹の伐採、枯竹・倒竹の整理、チップ化 竹パン作り、竹工作
H20. 12. 6	真備美しい森	玉島信用金庫	80	竹の伐採、枯竹・倒竹の整理 竹垣作り
H20. 12. 13	真備美しい森	リコー中国岡山支社	42	竹の伐採、枯竹・倒竹の整理 竹垣作り
H21. 3. 15	真備美しい森	学生ボランティア	21	竹の伐採、枯竹・倒竹の整理
計		5回	269	



(2) 竹林整備体験学習会

年月日	開催場所	参加者	参加者数	実施内容
H20. 7. 24	真備美しい森	総社市内小学生 (高梁川用水)	39	竹の伐採体験
H20. 7. 30	真備美しい森	総社市内小学生 (高梁川用水)	40	竹の伐採体験
H20. 8. 14	真備美しい森	総社市内小学生 (高梁川用水)	31	竹の伐採体験
H20. 10. 3	真備美しい森	総社市立 昭和中学校	8	竹の伐採体験 竹炭作り、竹工作、森林環境教室
H20. 11. 20	真備美しい森	小中学校 新任教員 (総合教育センタ)	26	竹の伐採、枯竹・倒竹の整理 竹炭作り、竹工作
H20. 12. 9	真備美しい森	総社市立 池田小学校	10	竹の伐採体験 森林環境教室
計		6回	157	



3 鬼ノ城発掘跡地植樹活動支援事業

年月日	開催場所	参加者	参加者数	実施内容
H21. 2. 13	鬼ノ城	総社市立 池田小学校	10	植樹 鬼ノ城の歴史教室
H21. 3. 4	鬼ノ城	古代吉備文化 財センター	15	植樹
計		2回	25	

4 彩りの森づくり協働事業

年月日	開催場所	参加者	参加者数	実施内容
H20. 10. 4	倉敷美しい森	立花容器(株)	80	植樹(ヤマモモ、ヤマザクラ)
H20. 11. 10	倉敷美しい森	弱酸性美容協会	22	植樹(イロハモジ、ヤマモモ、クスノキ)
H20. 11. 16	倉敷美しい森	一般市民 (ライフパーク倉敷)	14	植樹(イロハモジ、ヤマモモ、クスノキ)
計		3回	116	



成果・効果

- 1 里山保全グループ間及び行政との交流・情報交換が拡大し、里山保全グループと地元住民、山村住民と都市住民などの交流が活発になり荒廃した里山の再生により林地、耕地の再生が図られ、県土の保全に寄与できたが、引き続き、各グループ間のネットワークづくり等行政の助成が必要である。
- 2 地域の暮らしとともにあった竹林を活用した活動や、森林環境教育を通じて、児童から社会人まで自然環境問題への関心と理解を深めることができたが、次年度も学校等教育関係の要望があることから竹林整備協働事業を実施したい。
- 3 鬼ノ城の発掘現場での植樹活動及び歴史教育を通じて、地域の歴史について知見を深めるとともに、森林の大切さについて一定の成果を得られた。
- 4 荒廃した土地に花や紅葉、実のなる木を植樹することにより、野鳥にも優しい森林となり、地域の財産である森林の有効利用が図られ一定の成果を得られた。

平成20年度夢づくり協働推進事業の実施状況 19

事業名

地域の食文化伝承と地域農産物活用促進事業

事業の概要

近年、食を取り巻く環境がめまぐるしく変化する中、備中地域の中で育まれた食文化の見直しとその良さの伝承、安全・安心な農産物を提供することで、生産者と消費者をより近づけ、相互協働による地産地消の推進が必要になっている。

そこで、備中地域の先人の知恵を集めた「備中地域食とくらしの知恵と技」事例集を活用し、伝承者を中心とした世代間交流や生産者と消費者の交流を推進した。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
倉敷・井笠地域の技術伝承者 (生活交流グループ員、技あり会員、栄養委員、農協女性部員等)	食・くらしの知恵・技等伝承技術の提供
井笠の味づくり研究会 (生活交流グループ員、JA女性部員、漁協女性部員、酪農女性部員)	井笠地域の農林水産物を活用した料理の創出と普及、地産地消、食育推進
JA、漁協、市町等関係機関、生活協同組合員	活動協力、地産地消、食育推進
県民局(倉敷農業普及指導センター、井笠農業普及指導センター)	事業企画立案、技術伝承者の活動支援

実施状況

1 伝承塾等の開催

(1) 倉敷地域 (13回実施)

生活交流グループ員と倉敷市民学習センター、早島町公民館、おかやまコープ備北地域と協働により、それぞれ「倉敷の食材が織りなす行事食！」講座等を開設し、「備中地域食とくらしの知恵と技」事例集をテキストとして講習会を実施した。



親子でドーナツづくり



伝承料理

(2) 井笠地域 (18回実施)

井笠の味づくり研究会員が講師となって、地域住民(親子・小学生・中学生・一般を対象に地域食材を使った料理(「井笠の味百選」、「備中地域食とくらしの知恵と技」事例集)の講習会を開催し、地域特産品のPRと食育、伝統料理の伝承を行った。



親子対象伝承講習会(里庄町)



高齢者対象伝承講習会(井原市)



子ども料理教室(笠岡市)



地産地消料理献立

成果・効果

- 1 地元食材の活用方法を紹介することにより、備中地域の農産物に対する消費者の関心が高まった。
- 2 地域に伝わるくらしの知恵や食文化の伝承等を通じて、生産者と消費者の交流や世代間の交流が深まった。
- 3 季節毎の行事食の講座を行うことで、倉敷地域の食文化を再発見することができ一般消費者の行事食に対する理解が深まった。

平成20年度夢づくり協働推進事業の実施状況 20

事業名

ぶどうの担い手確保で中山間地域を活性化

事業の概要

井原市は、ぶどう栽培が盛んであり、基幹品目として推進が行われているが、近年は高齢化により産地の縮小が懸念されている。

産地の維持・発展のためには、産地の担い手確保が重要であるが、十分な確保が困難となっている。そのため、農家だけでなく地域の非農家や、企業の定年退職予定者を対象に、農業短期体験研修や現地見学ツアーによる栽培PR、ぶどう塾の開催等、多様な取組による新規栽培の呼びかけを行うことが必要である。

そこで、県、市、農業団体、ぶどう生産者と協働でこれらを実施し、ぶどうの担い手確保を進めた。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
JA岡山西井原市ぶどう部会、JA岡山西	事業実施
企業	農業短期体験研修参加者募集
井原市	参加者募集案内掲載、実施協力
県民局（井笠農業普及指導センター）	参加者募集支援、実施協力、資料作成、栽培指導

実施状況

1 企業訪問

会社定年後の再就職の一つとして、ぶどう栽培が一つの選択肢となるよう5月21日に(株)タカヤを訪問し、農業短期体験研修の募集PRを行った。社内に募集チラシを配布してPRするとの回答を得たが、残念ながら、農業短期体験研修等への出席者はなかった。

2 現地見学会、体験研修

ぶどう生産者組織、農業団体等と協力し、ぶどう栽培に興味のある方を募り、ぶどう栽培の農業短期体験研修、現地見学ツアーの開催を行った。

(1) 農業短期体験研修

① 日時及び参加人数

第1回目：6月7日・6人

第2回目：6月21日・4人

第3回目：7月12日・5人

第4回目：8月30日・5人

② 実施場所：井原市美星地区

(2) 現地見学ツアー

① 日時及び参加人数 8月30日・1人

② 実施場所：井原市美星地区・青野地区・芳井地区

3 ぶどう塾の開催

栽培初心者を対象にぶどう栽培者として定着するよう、基礎的な栽培講習、現地講習を行った。

(1) 日時及び参加人数

第1回目：5月28日・8人

第2回目：6月21日・8人

第3回目：10月21日・5人

(2) 実施場所：井原市芳井地区

4 新規栽培者の就農受入体制の整備

(1) 園地、情報の収集・提供

市、ぶどう部会、JAが新規栽培者が栽培開始できるよう農地情報を収集した。美星地区内のもも園跡地をぶどう部会の研修ほ場として、50aを借り受けることができた。

(2) 技術支援

新規栽培者については、卓越した栽培技術を有する「ピオーネマイスター」（井原市で5人選定）や部会役員にJA、普及センターが協力し、技術支援を行った。



6月7日 農業短期体験研修



8月30日 農業短期体験研修



5月28日 ぶどう塾



6月21日 ぶどう塾

成果・効果

- 1 農業短期体験研修の参加者のうち2名がぶどう栽培を開始したい意向を示し、うち1名は1カ月の農業体験研修を受け、平成21年度から2年間の農業実務研修を経て就農する。また、3名がJA岡山西美星ピオーネ部会支援の会に加入し、活動することとなった。
- 2 ぶどう部会及び関係機関が一丸となって、新規栽培者の確保活動を継続して行うこととなった。

平成20年度夢づくり協働推進事業の実施状況 21

事業名

ぶどう・トマトの担い手育成と産地活性化（高梁市備中町平川）

事業の概要

高梁市のピオーネ、トマトは、県下でも屈指の産地を形成しており、地域を代表する主たる農産物となっている。しかし、生産者の高齢化によって、担い手不足や耕作放棄地の発生による産地の活力低下が懸念されている。

これまで、普及センターは関係者と協力して、備中町をモデル地区としたピオーネの園地やトマトのほ場、及び後継者に関する実態把握と農地流動化に対する意向調査を実施してきた。関係各組織と情報を共有化し、農地の流動化等を進めることにより、多様な担い手の確保・育成や労働支援組織を育成するための地域合意が得られ、平成19年度に備中町産地活性化支援協議会が発足した。

平成20年度は、これらの合意の下に、平川田舎暮らし体験・交流事業として、都市住民の受入・交流活動に取り組んだ。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
平川村定住推進協議会 （備中町産地活性化支援協議会） トマト・ピオーネ生産組織、備中営農支援センター、農業士、平川地区コミュニティ、高梁市備中地域局、JAびほく農業委員会、農業普及指導センター他	連携会議開催（高梁市備中地域局） 園地情報の提供 （生産組織、JA、農業委員会等） 農業体験交流（生産組織、普及センター等） 地域交流（平川地区コミュニティ、高梁市等）

実施状況

- 1 連携会議の開催
 - (1) 平川村定住推進協議会の開催
 - ①日時：平成20年6月24日（火）
 - ②場所：平川いこいの家
 - ③内容：田舎暮らし体験・交流事業調整会議
（応募者の審査、指導農家の決定、今後について協議）
※田舎暮らし体験・交流事業費・・・1,172,000円



連携会議開催

- (2) 平川田舎暮らし・農業体験事業反省会の開催
 - ①日時：平成20年11月18日（金）
 - ②場所：平川いこいの家
 - ③内容：体験交流実施内容についての反省と今後
- (3) 田舎暮らし体験・交流事業報告会
 - ①日時：平成20年12月13日（土）
 - ②場所：高梁国際ホテル
 - ③内容：2組の交流体験者の体験記発表
意見交換、情報交換、今後の取組等

交流体験募集パンフ→

2 新規参入者等受入推進

4組の募集に対して、3組の応募があった。

(大阪府S氏夫婦、神戸市I氏夫婦、岡山市D氏)

(S夫婦は延べ10日間(内農業体験交流3回、地域交流3回、その他2回)
I夫婦は延べ12日間(内農業体験交流5回、地域交流3回、その他2回)
D氏は延べ5日間(内農業体験交流4回、地域交流0回、その他1回))

(1) 平川憩いの家で田舎暮らし・交流事業オリエンテーションの実施(第1回目)

①日時：平成20年7月12日(土)

②場所：平川いこいの家

③内容：田舎暮らし・交流体験者への事業説明等
体験者としてピオーネ1組(夫婦)
トマト1組(夫婦)が出席



オリエンテーション実施

(2) 平川憩いの家で田舎暮らし・交流事業オリエンテーションの実施(第2回目)

①日時：平成20年7月19日(土)

②場所：平川いこいの家

③内容：田舎暮らし・交流体験者への事業説明等
体験者としてピオーネ1名が出席

(3) 農業体験交流の実施

①7/16：ピオーネ農業体験

②7/27・28：トマト農業体験

③9/13・14：ピオーネ、トマト農業体験

④10/4：トマト農業体験



農業体験交流

(4) 地域交流体験の実施

①7/12：地元土曜夜市へ参加(2組参加)

②11/3：平川地区秋祭り体験指導(2組参加)



2組とも地域の秋祭りに参加

成果・効果

- 3組の交流体験希望者の受入を実施した。そのうち、2組は平成21年度も交流の継続を希望している。1組は就農予定地の確保を、1組は継続的な農業体験を希望している。平成21年度は既存の2組の継続交流と新規に2組を募集する予定としている。
- 地元、産地の担い手確保に対する意識の高揚が図られた。
- 都市と農村の体験交流モデル地区としての役割(備中町平川地区)が期待される。

平成20年度夢づくり協働推進事業の実施状況 22

事業名

里山ふれあいの森づくり

事業の概要

森林を適正に保全・整備し、森林の有する公益的機能を持続的に発揮させるためには、子供から高齢者まで県民各層の幅広い理解と協力を得て、県民参加による協働の森づくりを進めていくことが肝要である。

このため、おかやま森づくり県民税事業等を活用しながら、森林ボランティア活動の中心的な役割を担う人材の養成を進めるとともに、身近な自然である里山林の保全に取り組む地域住民グループの活動を支援し、県民主体の自主的で息の長い森づくり活動へと一層の展開を図った。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
森林ボランティア団体 商工団体 小学校 地域住民	里山の保全・活用の実践活動
市町 森林組合	市町有林の提供、団体等への助成・指導、 地域住民への周知 森林活動の技術指導
県民局井笠支局 (地域農林水産室)	団体等に対する企画立案支援 森林活動の技術指導 資機材の貸与

実施状況

1 櫛の杜塾

井笠支局管内で最も精力的な活動を展開している「櫛の杜塾」の10周年記念行事が、10月17日(金)～19日(日)に井原市門田町の「櫛の杜」において・式典・野外アート展(メッセージ2008)・アトラクション(鳥羽太鼓、吹奏楽)・杜の市(特産物等の即売)など盛りだくさんの企画で、盛大に開催された。また、3月15日(日)には、「櫛の杜」において、ケヤキ苗木の植樹を行った。(参加人数:40名)



「櫛の杜塾」10周年記念行事

2 笠岡商工会議所女性会

笠岡のまちおこしに取り組む「笠岡商工会議所女性会」18名が、10月30日(木)に、井笠支局森林課の技術指導を受けながら、松くい虫の被害により荒廃した笠岡市吉田の里山において、自ら育てたドングリポット苗木を植樹した。



植樹活動(笠岡市吉田)

3 井笠地域美しい森づくりの会 (事務局：井笠支局森林課)

(1)「おかやま共生の森・井原」(井原市西江原町)において、ボランティアを一般公募し、『保育のつどい』(枝打ち：11月8日・12月6日、間伐：1月31日)を開催した。また、作業後、カズラを利用したリースづくりやヒラタケの植菌といった多様な森林活動も実施し、里山保全に対する意識啓発を図った。

(参加延人数：60名)



保育のつどい(共生の森・井原)

(2) 笠岡市立吉田小学校の児童(5,6年生)及び地元住民等とともに、11月19日(水)に笠岡市の「吉田の森」において、ドングリポット苗木の植樹を行った。

(参加人数：83名)



児童による植樹(笠岡市吉田)

(3) 里庄町立里庄西小学校の児童(6年生)とともに、2月24日(火)に里庄町里見の里山において、ドングリポット苗木の植樹を行った。

(参加人数：51名)



児童による植樹(里庄町里見)

4 備中県民局井笠支局

3月7日(土)に、井原市笹賀町の「経ヶ丸生活環境保全林」の松くい虫の被害によって荒廃した森林において、一般公募による県民参加の植樹のつどいを開催した。

(参加人数：58名)



植樹のつどい(井原市・経ヶ丸)

成果・効果

- 1 森林活動体験の行事を実施することにより、参加者に里山はもとより森林環境保全の重要性について理解を深めてもらうことができた。
- 2 様々な団体・年代の人々の参加を募り、里山保全が幅広く、継続的な活動になるよう意識啓発ができた。
- 3 森林作業だけでなく、リースづくり、ヒラタケの植菌などを行事に組み込むことにより、里山の楽しみ方も伝えることができた。

平成20年度夢づくり協働推進事業の実施状況 23

事業名

食育と地産地消の推進「元気高粱を目指した食育推進事業」

事業の概要

食に関する情報が氾濫し、栄養の偏りや不規則な食生活が問題となっており、肥満者や生活習慣病が増加している。

特に、若い頃に良い食習慣を身につけることは重要であり、次代を担う若者世代に食を中心とした健康づくりをすすめるとともに、高粱地域の食育及び地産地消に対する意識の向上を推進した。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
高粱市栄養改善協議会連合会	事業の企画立案、事業実施
高粱地域「食育と地産地消」推進連絡協議会構成団体	事業協力
高粱市新農業経営者クラブ連絡協議会 高粱直ちょくねっと 高粱地方農村生活交流グループ協議会	事業実施
県民局高粱支局（高粱保健所）	事業の企画立案、事業実施

実施状況

1 高粱っ子食育普及啓発事業 ～三世代交流と地産地消～

「食生活の自立をめざして」のテーマのもと、親子料理教室と食育と地産地消を考える会を開催した。

親子料理教室は、「子ども達に伝える我が家の料理」として、地元で生産された野菜を活用して、豚汁など手軽で野菜がたっぷり入った、将来一人暮らしをしても栄養バランスが摂りやすいメニュー中心とした。また、世代交流と話し合いを大切に取り組んだ。



親子料理教室

2 学園都市高粱の食育推進事業

(1) 高粱版食育指針の作成、普及啓発

高粱の若者に対する食生活等実態調査をもとに高粱版の食育指針を作成し、普及啓発活動を実施した。



高粱版食育指針

(2) 高校の文化祭、大学の学園祭を活用した食育の普及啓発活動

- ①日時：平成20年11月 9日(日)
平成20年11月16日(日)
- ②場所：吉備国際大学学園祭
高梁城南高等学校高梁校地文化祭
- ③内容：(ア) 栄養委員コーナーの設置
(イ) コンビニと手づくり弁当の比較展示
(ウ) インスタント食品の塩分展示
(エ) 食育パネル展示、体脂肪測定等



野菜たっぷり弁当



コンビニ弁当の展示



料理の塩分展示

- (3) スーパー・コンビニ等を活用した情報発信
食育カードを作成し、スーパー・コンビニ
飲食店等に配布し、情報発信をした。



食育カード

3 「食育と地産地消」推進リーダー研修会

- (1) 日 時：平成20年12月8日(月)
- (2) 場 所：高梁総合文化会館 レクチャールーム
- (3) 参加者：87人
- (4) 講 演：地域で取り組む食育推進活動
ノートルダム清心女子大学
人間生活学部食品栄養学科
准教授 逸見眞理子氏



講演の様子

(5) 実践発表

- ①地産地消の取り組みについて
高梁市立有漢学校給食センター
栄養士 瀬尾好美氏
- ②農業体験と地産地消の活動
わいわいクラブ 藤田 泉氏
- ③私たちの栄養委員活動
高梁市備中地域栄養改善協議会
会長 平井みどり氏



実践発表 コメンテーター

④コメンテーター

岡山県学校給食会高梁支部 支部長 中島 生晴氏

山陽新聞社編集局経済部 記者 大河原三恵氏

ノートルダム清心女子大学人間生活学部食品栄養学科准教授 逸見眞理子氏

4 高梁地域地産地消フェアの開催

(1) 日 時：平成20年10月18日(土)

(2) 場 所：ポルカ天満屋ハピータウン

(3) 参加者：約400名

(4) 内 容：①高梁地域で生産された有機農産物や特産物
農産加工品、地元食材を使った食べ物の販売
②ももっちとおかやま米大使による米消費拡大
PR等

(5) 主な販売物：有機栽培米、野菜、ピオーネ、トマト
高梁紅茶、山菜おこわ、つきたてもち
鴨汁、けんちんそば、蒸しまんじゅう等



フェアの開催

(6) 出展団体：①有機で元気たかはし村(宇治町ふるさと農法研究会・上組営農実行組合・かようあいがも会)

②高梁地方農村生活交流グループ協議会

(百姓のわざ伝承グループ、中野なかよし会・北方農村生活交流グループ)

③JAびほく

5 消費者代表者との交流

<第1回>

(1) 日 時：平成20年7月24日(木)

(2) 場 所：高梁市成羽町、川上町、宇治町

(3) 内 容：直売所の見学・買物、こんにゃく作り体験
合鴨農法の見学、ピオーネ収穫体験、生産
者と消費者との意見交換

(4) 参加者：26人(岡山市、倉敷市の一般消費者)



直売所での見学・買物

<第2回>

(1) 日 時：平成20年12月9日(火)

(2) 場 所：高梁市落合町、津川町、有漢町

(3) 内 容：直売所の見学・買物、ごぼう堀体験
地産地消料理(地粉うどん等)の試食
生産者と消費者との意見交換

(4) 参加者：17人(おかやまコープ備北地域組合員)



地産地消料理の試食

6 高梁ピオーネ祭の開催

(1) 日 時：平成20年9月27日(土)

(2) 場 所：直売所(JAグリーンセンター特産品直売所、ポルカ食品館ふるさと市場、ゆめタウン高梁ゆめ市場、かんばら茶屋、かぐら街道布寄直売所、神楽の里フレンドショップ、全国川上水と緑のふるさとプラザ、高梁市川上フラワーフルーツパーク仁賀直売所、弥高山直売所、うかん常山公園風ぐるま市場)

- (3) 内 容：ピオーネの試食、ピオーネの房売り
箱売り（2kg・5kg）
ピオーネ加工品（ジャム・ゼリー）の試食
アンケート（ゆめ市場）
- (4) 主 催：高梁直ちよくねっと
- (5) 参加者：約2400人



高梁ピオーネ祭でのピオーネ販売

7 食の知恵と技伝承講座の開催

<第1回>

- (1) 日時：平成20年7月22日（火）
- (2) 場所：高梁市有漢町
- (3) 内容：ピオーネの袋かけ
- (4) 参加者：おかやまコープ備北地域組合員 8人



ピオーネの袋かけ

<第2回>

- (1) 日時：平成20年9月24日（水）
- (2) 場所：高梁市有漢町
- (3) 内容：ピオーネの収穫
- (4) 参加者：おかやまコープ備北地域組合員 8人



ピオーネの収穫

<第3回>

- (1) 日時：平成20年10月18日（土）
- (2) 場所：ポルカ天満屋ハピータウン
- (3) 内容：高梁地域地産地消フェア
生活交流グループによる特産加工品の販売
手打ちそば、手作りまんじゅうの実演販売
- (4) 参加者：約400人



特産加工品の販売

8 高梁地域の農産物活用交流会

高梁地方新農業経営者クラブ連絡協議会では、高梁市備中町において、岡山学院大学生15名と「高梁地域の農産物活用交流会」を開催した。

この活動は、搾乳やバター作り等の体験を通じて、管理栄養士等を目指す学生に生産の現場を知ってもらうことと、調理の専門家のたまごによる、畜産物を活用した献立づくりによって、地域資源の新たな活用方法を探ることを目的に行った。

学生達は、搾乳体験とバター作り体験を行った後、牛舎内で肉用牛と乳牛の違いについて説明を受けた。

その後、調理実習室に移動して、事前に学生自らが考えた5品を調理した。最後に学生と青年農業者全員が集まって、料理を食べながら情報交換と交流会を行った。



情報交換



牛舎内見学

(1) 開催日：平成20年10月4日(土)

(2) 開催場所：高梁市備中町

成果・効果

- 1 高梁っ子食育普及啓発事業及び学園都市高梁の食育推進事業では、参加協力が得られた若い世代には、健康づくりに関心を持ってもらい、「朝食を毎日食べる」、「野菜を十分摂取する」、「栄養バランスのとれた食事をしよう」という意識啓発ができた。
- 2 「食育と地産地消」推進リーダー研修会では、食育に取り組む保健、教育、農業等関係団体の連携ネットワークが構築された。
- 3 高梁地域地産地消フェアの開催では、生産者自ら直売・PRすることにより、生産者の顔が見えて安心感のある地元農産物・加工品への地元消費者の認識が深まった。
- 4 消費者代表者との交流では、直売所の関係者から、生産者の苦労や農産物への思いなどを説明しながら、見学、買物をしてもらうことで、普段の買物では気づかなかったことを気づいてもらえ、買う時の参考にしてもらえた。また、生産現場の体験や生産者との交流によって、消費者に農産物への愛着や生産者の思いを知ってもらうことができた。
- 5 高梁ピオーネ祭の開催では、10カ所の直売所が共通のチラシを作成・配布し、ラジオやテレビで宣伝広告することにより、岡山、倉敷などから集客が図られ、高梁のピオーネがPRできた。また、新しいピオーネの加工品開発の気運が高まった。
- 6 食の知恵と技伝承講座の開催では、農業生産現場の体験を通して、食の安全・安心への理解が深まった。また、消費者に手作り加工品、料理の良さを伝えることができた。
- 7 高梁地域の農産物活用交流会においては、学生から、「牛を間近に見て、圧倒された。」「肉になる牛を見て、日頃の食を支えている命を感じ、何ともいえない気持ちになった。」等の感想が聞かれた。また、青年農業者からも「いつもと違って牛肉のおいしい食べ方が色々あることを知った。」等、感想や質問が活発に出された。生産者と消費者が、それぞれの得意分野を生かした交流を行うことで、互いに視野を広げ考えを深めることができた。

平成20年度夢づくり協働推進事業の実施状況 24

事業名

森林ボランティア育成支援事業（高梁美しい森）

事業の概要

近県、林業労働力の減少・高齢化や施業意欲の減少等により放置された森林が増加しており、森林生態系の維持や公益的な機能の発揮に支障が生じている。

このため、高梁市においても、森林ボランティア等による森林保全の取組が必要かつ急務であり、森林整備を目的としたグループ（NPO法人 ふれあいの里・高梁）の自主的な活動を推進するための育成支援を行うとともに、森林ボランティアの育成・拡充を図ることを目的として、NPOとの協働により「森林ボランティアのつどい」を開催した。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
NPO 法人ふれあいの里・高梁	一般県民の参加募集・イベントの企画運営
森林ボランティア・一般県民	マツ林の整備、キノコの植菌、人工林の間伐
高梁地方森林組合	間伐の技術指導
高梁市	「高梁美しい森」の管理運営
県民局高梁支局（地域農林水産室）	森林施業の技術指導、情報提供

実施状況

1 森林ボランティアの育成支援

県内企業に対しCSR活動として森林整備を実施するよう働きかけ、新たに㈱オムロンとNPOが作業実施についての契約を締結した。また、NPOの基盤強化に資するため、企業・個人に働きかけ会員の募集を実施した。



企業（㈱オムロン）のCSR活動の様子

2 「森林ボランティアのつどい」の開催

- (1) 日 時：平成21年2月7日(土)
- (2) 開催場所：高梁美しい森(高梁市松山地内)
- (3) 実施内容：一般県民、NPO、森林ボランティア、里山ボランティアマスター講座受講者、地元住民の参加によりマツ林の整備及び原木伐採、キノコ植菌を行った。
- (4) 参加者：125人(内ボランティアマスター36名)
- (5) 実施面積：0.15ha



森林ボランティアのつどい

成果・効果

- 1 森林ボランティアの育成支援については、(株)オムロンに働きかけ、年3回実施する森林保全活動について、NPOとの委託契約を締結した。また、新規会員の募集・勧誘を実施した結果、設立当時の52人(会員46人・6団体)から80人(会員70人・10団体)と会員数も増加し、NPOの財政的、人的基盤の強化が図られた。
- 2 「森林ボランティアのつどい」については、125人の一般ボランティアが参加し、高梁美しい森内のアカマツ林の整備が促進された。

平成20年度夢づくり協働推進事業の実施状況 25

事業名

夢づくり新見健やかネット会議・にいみ食育推進隊

事業の概要

夢づくり新見健やかネット会議で各種団体と関係機関と行政が協働で食育の推進について検討し、にいみ食育推進隊の地域活動により地域住民への意識啓発を図った。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
夢づくり新見健やかネット会議 にいみ食育推進隊	食育の取組のあり方検討 地域での食育の推進活動
新見市 県民局新見支局（地域健康福祉室）	ネット会議の企画・運営・評価の支援

実施状況

1 夢づくり新見健やかネット会議

栄養改善協議会、愛育委員会、小中校長会、JA阿新女性部、老人クラブ、PTA 連合会、保育所研究会、幼稚園教育研究会、にいみ後継者クラブ等18団体で結成され、行政と協働して新見地域での食育推進の課題、食育の進め方、活動の評価などを検討した。



健やかネット会議

2 地域での食育推進活動

(1) 各種研修会での食育の普及啓発 7回



栄養改善協議会総会

(2) 食育講座の開催

- ①親子料理教室 22回 655人
- ②外食世代講習会
 - 共生高校 3回 107人
 - 新見短期大学 1回 34人



朝食大作戦（親子料理教室）



新見短期大学での食育講座

(3) すこやかかるた大会の実施

健やかネット会議で平成16年度に作成したかるたを活用して、3世代交流での普及活動を9会場で実施した。

- ①思誠小学校 78人
- ②石蟹公民館 30人
- ③夢ひろば萬歳 81人
- ④大田ふれあいセンター 47人
- ⑤金ぼたる交流館 125人
- ⑥上市市民センター 43人
- ⑦菅生公民館 53人
- ⑧上市市民センター 23人
- ⑨哲多総合センター 48人



すこやかかるた

(4) 食育フェアの開催

食育に関する展示・相談・体験学習コーナーを2会場で設け、子供や親、一般住民に「食」の大切さを呼びかけた。

- ①憩いとふれあい公園 254人
- ②サンパーク新見 234人



親子エコフェスタ

- (5) ミニ食育フェアの開催 5会場
- | | |
|-----------|------|
| ①新見公立短期大学 | 173人 |
| ②井倉公民館 | 60人 |
| ③夢すき公園 | 60人 |
| ④まるだい | 80人 |
| ⑤哲多総合センター | 98人 |



新見サンパーク

- (6) 食育月間(6月)及び食育の日(毎月19日)の普及啓発

- | | |
|--------------------------------|--------|
| ①5月30日：新見駅で世界禁煙デーに合わせてパンフレット配布 | (250部) |
| ②6月17日：サンパーク新見でパンフレット配布 | (400部) |
| ③10月17日：フレスタ新見店でパンフレット配布 | (250部) |

- (7) インターネットを利用した家庭での食育の実践

- ①野菜栽培体験「野菜のプランター栽培指導」(応募者 54名)

ホームページや地元新聞で募集し、応募者に、小松菜、こかぶ、肥料を配布して栽培してもらった。栄養面、食べ方などの質問に対応しながら実践した。

- ②地産地消の推進「地域特産を利用したアイデア料理」(応募 4件)

地域の特産物(ピオーネ、トマト、ニンニク等)を紹介し、それらを使った特製レシピをインターネットで募集した。そのレシピをホームページで紹介し感想を聞いた。応募者に景品として「ピオーネ大福」「トマトジャム」「ちぢみほうれん草」等を配布した。

成果・効果

- 1 ネット会議での話し合いや、食育推進隊の取り組みにより関係団体・機関・行政が協働して事業を実施し、お互いの連携がはかりやすくなった。
- 2 ネット会議を中心に作成した教育資材や普及啓発媒体を地域に貸し出し、各地域で三世代交流などで楽しい普及啓発を行い地域のつながりが深まった。
- 3 現状報告と今後の活動についてのワークショップを行い、今後の参考となる様々なアイデアが得られた。

平成20年度夢づくり協働推進事業の実施状況 26

事業名

精神障害者・家族と地域の協働による心のユニバーサルデザイン推進プログラム

事業の概要

精神障害者の自立促進のためには、社会の理解が不可欠であり、NPO 法人を中心とした関係機関と行政が協働して、協働ミーティング（実行委員会）を設置し「ハートフルフェスティバル」の開催・障害者地域活動支援センターや関係団体と地域交流活動を通して、心のユニバーサルデザインの一層の推進を図った。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
当事者 家族 NPO 法人「ハートフル・あしん」 共同作業所「つつじ憩いの家」	事業実施への企画運営 団体内での取組、事業の共同実施 住民への声かけ
その他各種団体（児童民生委員会、愛育委員会、栄養改善協議会、ボランティアの会、看護協会、短期大学 等）	団体内での取組、事業の共同実施 住民への声かけ
新見市（保健・福祉） 県民局新見支局（新見保健所）	活動への助言及び情報提供

実施状況

地域住民と精神障害者への理解や交流を深め、障害者の社会参加を促進するため次の事業を行った。

1 ハートフルフェスティバルの開催

地元住民有志や三障害関係団体のコンサートやフラダンス、精神障害者当事者を中心に手話と歌を披露し好評を得た。

- (1) 日 時：平成20年11月29日（土）
- (2) テーマ：ほほえみからきらめきへ
- (3) 参加者：関係団体・市民等 約240人



家族・当事者の体験発表

(4) 内 容

① 講演会

テーマ：関心と安心～障害者が安心して暮らせる地域づくり～

講 師：障害者地域活動支援センター
精神保健福祉士 河合宏氏

②当事者及び家族の意見発表

③ハートフルイベント



ほほえみバンド結成

2 日常の協働活動

(1) ソフトバレーボール大会 in にいみ

平成18年度から継続実施。県内の障害者支援センターや作業所のソフトバレーボールチームを新見に迎え大会を開催した。

大会運営や審判に小中学生ボランティア・一般ボランティアが参加し、障害者の理解を深めた。

①日時：平成20年8月23日（土）

②場所：新見体育館

③参加チーム：7チーム



開会式

(2) ほほえみサポーター養成講座フォローアップ研修への協力

平成19年度に障害を理解し、障害者や家族と交流を深めるため、また、地域との架け橋となってもらおうよう、保健所・精神保健センター・新見市・新見市障害者自立支援協議会・新見市内の障害者 NPO 団体が協働でボランティア養成講座を行った。この講座の受講者20名へのスキルアップと受講者同士の交流を目的にフォローアップ研修を実施した。

①日時：平成21年3月1日（日）

②場所：障害者地域活動支援センター

③対象：平成19年度のボランティア養成講座受講者 20人



講義：元気になる支援のコツ

成果・効果

- 1 精神障害者・家族、ボランティア、住民、行政が一堂に集まり、楽しく交流活動を行うことで、障害についての理解が促進され、障害者への支援活動の充実が図られた。
- 2 障害者は交流活動に企画・参加することで、自信が得られるとともに、地域住民との交流で社会性が向上した。
- 3 新見市の各支局単位で開催する事によって、各種団体や住民の支援者の輪が広がるなど、障害者に対する地域の理解が深まり、障害者が安心して生活できる地域づくりの一助となった。

平成20年度夢づくり協働推進事業の実施状況 27

事業名

県道 大佐日野線の整備

事業の概要

当該路線は、急峻で狭隘な地形が連続しており、幅員の狭小区間も多く、冬期の除雪作業にも多大な支障をきたしている状況である。

一方、山には種々の樹木が繁茂しており、新緑・木漏れ日・紅葉等は見事であり、また小坂部川の溪流にも身近に接することができ、自然景観に大変恵まれている。

この地域においては、沿線住民で組織する「大佐日野線三部落道路愛護会」が長年にわたり、道路の草刈りやゴミ拾い等の道路美化活動を続けている。

新見支局では、上記愛護会を中心とした地域住民・関係者と協働し、地域と密着した道路整備を進めるとともに、自然環境を生かした道づくりなど様々な可能性を模索した。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
大佐日野線三部落道路愛護会 新見市	道路整備の提言・地元調整 道路清掃・草刈・樹木伐採
県民局新見支局（地域建設室）	協働事業の普及・啓発 道路整備の計画・立案、用地補償工事

実施状況

地元からの要望箇所について、優先順位や役割分担を考慮し、今年度は下記の4箇所について事業を実施した。

①	<p>新見市大佐大井野(赤松) 道路拡幅工事 路側護岸工</p> <p>年 度 H 2 0 ~ H 2 1 事業費 1 千万円 (H20) 延 長 L = 4 0 m (H20) 幅 員 W = 5 . 0 m</p>	
②	<p>新見市大佐大井野(赤松) 道路防災工事 土留擁壁・落石防護柵工</p> <p>年 度 H 1 9 ~ H 2 0 事業費 0 . 6 千万円 (H20) 延 長 L = 3 0 m (H20) 幅 員 W = 4 . 5 m</p>	
③	<p>新見市大佐大井野(赤松) 道路防災工事 落石防護柵工</p> <p>年 度 H 2 0 事業費 0 . 2 千万円 延 長 L = 1 5 m 幅 員 W = 3 . 0 m</p>	
④	<p>新見市大佐大井野(赤松) 県道と小坂部川間の立木伐採 延長 L = 2 0 0 m (道路愛護会・新見市)</p>	

成果・効果

- 1 愛護会を通じて地元要望の集約・地元説明・用地交渉等について円滑に進めることができた。
- 2 住民との対話を重視し意向を出来る限り吸い上げることにより「住民の視点に立った道づくり」を進めることができたほか「自分たちの手で道路をつくり、まもる」といった地元の意識も醸成された。

平成20年度夢づくり協働推進事業の実施状況 28

事業名

高梁川源流の森を活かし、守ろう！ <企業との協働の森づくり>

事業の概要

高梁川源流域の森林の荒廃を防ぎ、源流の森が有する公益機能の維持及び都市住民等との交流を通じた中山間地域の活性化を図るため、企業と森林所有者等が協働の森づくりについて協定を締結し、継続的な森林保全活動の仕組みを構築する。

「源流を活かし、守る」をテーマに企業や源流域住民をはじめとした各主体との議論の場を設け、平成19年度の取組を踏まえ、森林保全活動等の課題解決の方策について検討した。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
高梁川源流住民 阿新地域美しい森づくりの会 源流婦人林研 新見市森林組合、新見市	源流の現況説明、事業の企画立案、事業協力、事業の受託
高梁川下流企業等	企業のニーズ、インセンティブ、事例の紹介、事業参加
県民局（協働推進室） 新見支局（森林課）	協働ミーティングの運営、出前講座の実施、事業の企画立案、事業の委託

実施状況

1 企業説明会の開催

源流の森の恩恵を享受する県南企業に対して、森林保全活動等を実際に体験してもらう「下刈作業等現地体験会」への参加を呼びかけた。

- (1) 開催日：平成20年8月20日(水)
- (2) 開催場所：サンロード吉備路（総社市）
- (3) 参加者：(株)ザグザグほか（11社／13名）



企業説明会

2 現地体験会の開催

県南企業の参加による「下刈作業等現地体験会」を源流域住民のサポートにより開催した。

- (1) 開催日：平成20年9月28日(日)
- (2) 開催場所：新見市大佐小阪部（魚切公園）
- (3) 参加者：㈱ザグザグほか（6社／22名）
地元住民等 計約60名



下刈り体験



地元食材を使った昼食会

3 森林保全協定等調印式の開催

現地体験会に参加した㈱ザグザグが森林保全活動に取り組むため、土地所有者の新見市と協定を締結した。

- (1) 開催日：平成21年2月9日(月)
- (2) 開催場所：備中県民局 新見支局
- (3) 参加者：㈱ザグザグ、新見市、
新見市森林組合、県民局



森林保全協定等調印式

4 植樹のつどい

社員や地元住民等が参加して、大佐山の活動地で植樹のつどいを開催した。

- (1) 開催日：平成21年3月24日(火)
- (2) 開催場所：新見市大佐小阪部（大佐山）
- (3) 参加者：㈱ザグザグ、地元住民、新見市
新見市森林組合、県民局
約90人



「ザグザグの森」植樹

成果・効果

森林保全活動に取り組む企業（㈱ザグザグ）と森林所有者（新見市）等との間で、活動の内容について合意に至り、森林保全協定等を締結した。今後は、植栽、下刈等による森づくりを5年間にわたり継続的に実施することとなる。これを契機に、他企業の参入が期待できる。

4 職員研修の実施

(1) 県民局職員、市町職員、NPO等を対象とした協働の基礎研修 ～協働の基礎知識を学ぶ～

【協働基礎研修会】

日 時	平成20年9月16日(火) 13:00～15:00
場 所	備中県民局会議棟1階第1～3会議室
参加者	県民局職員53人、市町職員26人、NPO等10人
講 師	古賀 桃子氏(特定非営利活動法人 ふくおかNPOセンター 理事長)
内 容	講義「NPOと行政の協働について～よりよき協働を進めるために～」



基礎研修会



応用研修会

(2) 県民局の各部所で協働を推進する職員(連絡会議委員、協働推進員等)を 対象とした協働の応用研修

～ワークショップを通じて、課題の共有化や課題解決の手法を学ぶ～

【協働応用研修会】

日 時	平成20年10月3日(金) 10:00～16:00
場 所	備中県民局会議棟1階第1～3会議室
参加者	県民局職員20人、市町職員10人、NPO等2人
講 師	古賀 桃子氏(特定非営利活動法人 ふくおかNPOセンター 理事長)
内 容	ワークショップ 「NPOと行政の協働について～ワークショップからはじめる協働事業」

(3) 県民局職員、市町職員、NPO等を対象としたスポーツ振興を通じた地域活性化を図る研修

【スポーツ研修会】

日 時	平成20年10月29日(水) 14:00~16:00
場 所	備中県民局会議棟1階第1~3会議室
参加者	県民局職員63人、市町職員1人、NPO等 2人
講 師	木村 正明氏(株式会社ファジアーノ岡山スポーツクラブ 代表取締役)
内 容	講演「子どもたちに夢を 晴れの国・岡山からJリーグへ」



スポーツ研修会



協働リーダー養成基礎研修会

(4) 県民局職員、市町職員、NPO等を対象とした協働リーダー養成の基礎を学ぶ研修

【協働リーダー養成基礎研修会】

日 時	平成21年1月26日(月) 14:00~16:00
場 所	備中県民局第2庁舎2階第1~3会議室
参加者	県民局職員19人、市町職員16人、NPO等2人
講 師	加藤 せい子氏 (特定非営利活動法人 吉備野工房ちみち 代表理事) 西 廣行 氏 (備中狛犬探検隊 隊長) 萩坂 普仁 氏 (備中狛犬探検隊 大目付) 宇野 均恵 氏 (特定非営利活動法人 子ども劇場笠岡センター 理事長) 横田 章善 氏 (吉備路ボランティア観光ガイド協会 会員)
内 容	管内で「地域づくり」を行っている団体の活動事例紹介及び意見交換会

5 夢づくり推進表彰の実施

(1) 夢づくり大賞（知事表彰）

【表彰式】

日時：平成20年5月23日（金）

場所：県庁3階特別応接室

地域子育て応援ネット構築

（NPO法人保育サポート「あい・あい」 代表理事 中島久美子）



NPO、学校等が協働し、地産地消に視点を取り入れた食育教室、保育士等の専門職による地域での子育て応援等を行い、子どもが健やかに育つ地域づくりに貢献した。

いつまでも輝き続ける島を目指して

（NPO法人かさおか島づくり海社 理事長 鳴本浩二）



NPO、地域住民、行政等が協働し、特産品づくりや島の食材にこだわった「しまべん」の商品化等に取り組み、地域住民の力を結集した地域づくりに貢献した。

「愛らぶ高梁～まち創り、人創り、夢創り」の推進

（高梁市青年経済協議会 会長 平松久幸）



学校、地域住民等が協働し、地域に密着した手づくりイベントの開催等により市民交流の推進に寄与し、地域の活性化に貢献した。

男女共同参画による地域づくりの推進

（にいみフォーラム 運営委員長 藤井桂子）



地域住民、学校等が協働し、長年にわたり、男女共同参画社会の実現に向けた研修会や交流会等を展開するなど男女共同参画の推進に貢献した。

(2) 夢づくり推進賞（県民局長表彰）

【表彰式】

日時：平成20年5月30日（金）

場所：県民局会議棟1階会議室

れとろーど' 07
（総社市文化協会 代表 難波聖爾）



総社商店街を会場に空き店舗や民家に絵画や生花を飾るギャラリー、ミニコンサート、温羅太鼓、路上パフォーマンスなどを開催するとともに、期間限定の駄菓子屋や映画館を復活させるなど商店街が活気づいていた昭和30年代の様子を再現し、地域の活性化に貢献した。

JC戦士タマシマン～地域に貢献するローカルヒーロー～
（(社)玉島青年会議所 理事長 猪木洋二郎）



「JCを分かりやすく理解してもらうこと」を目的に誕生したJC戦士タマシマンは、地域のイベント等に積極的に参加するとともに、家族愛、郷土愛をテーマに倉敷芸術科学大学と協働で映画を制作するなど地域の活性化に貢献した。

フリースペース「フレンドリー☆いばら」の運営
（NPO法人まちづくり岡山ネットワーク 会長 吉澤万千子）



ひきこもり、不登校に悩む家族、当事者の居場所づくりとして、フリースペース「フレンドリー☆いばら」を運営。喫茶をしながらの座談、卓球などのスポーツ、地域ボランティアによるダンスなどを実施し、地域で支える取組を行った。

映画ロケ誘致と観光振興
（たかはしフィルム・コミッション 会長 石井雅之）



歴史的、伝統的な建物が多く残っている高梁の町並みを映画等のロケ地として誘致活動を展開するとともに、撮影時には、ボランティアエキストラの手配などの支援を行うなど高梁の魅力を県内外へ積極的にPRし、観光客誘致につながる取組を行った。

精神障害者・家族と地域の協働による心のユニバーサルデザイン推進プログラム
（NPO法人ハートフル・あしん 理事長 宮本芳恵）



保健・福祉・医療関係者や地域ボランティア等が協働し、ハートフルフェスティバルの開催や地域住民との交流を図る当事者グループ「つつじ劇団」による公演、県内9つの障害者チームが集まるソフトバレーボール大会の開催など障害者に対する地域の理解を深める取組を行った。